

参 考 资 料

【参考資料1】震災後の観光復興に向けた取組み	1
I 東北運輸局関連の主な取組み	1
II 関係団体の主な取組み	9
(1) 東北観光推進機構	9
(2) 社団法人 日本観光振興協会 東北支部	10
(3) 一般社団法人 日本旅行業協会(JATA)	11
(4) 一般社団法人 日本旅館協会 東北支部連合会	13
(5) 社団法人 日本ホテル協会 東北支部	14
(6) 東北六魂祭実行委員会	16
(7) 東北鉄道協会	16
III 東北6県及び新潟県の主な取組み	17
(1) 青森県	17
(2) 岩手県	18
(3) 宮城県	19
(4) 秋田県	20
(5) 山形県	21
(6) 福島県	22
(7) 新潟県	24
【参考資料2】東日本大震災発生後における観光関連施設の状況	25
I 各県の状況	25
(1) 各県観光への影響について	25
(2) 被災三県の震災後における人口の推移	25
II 宿泊施設の状況	26
(1) ホテル・旅館の被害状況	26
(2) 震災後における政府登録ホテル・旅館の営業状況	28
(3) ホテル・旅館のキャンセル状況	28
(4) 県境を越えた旅館・ホテルでの被災者の受入について (プレス資料) ---	29
(5) 被災三県に係る宿泊施設での被災者受け入れ状況	30
(6) 東北地方主要宿泊施設における動向調査	31
III 旅行業者の状況	31
(1) 東北地方主要旅行業者 (3社) の取扱額推移	31
IV 観光施設の状況	32
(1) 東北地方主要観光施設入込み客数	32

V 復興に向けた取組み	35
(1) 復興商店街等の状況	35
(2) 「語り部タクシー」の状況	36
【参考資料3】東北地方における観光の現状	37
I わが国における観光消費額の現状	37
表1-1 平成22年国内の旅行消費額23.8兆円の市場別内訳	37
表1-2 旅行消費が我が国にもたらす経済効果	37
表1-3 平成22年東北各県の旅行消費額	38
II 東北地方の観光資源等の現状	39
表2-1 評価観光資源	39
表2-2 特A級観光資源	39
表2-3 東北6県及び新潟県のA級観光資源	39
表2-4 日本の100選いろいろ	40
表2-5 重要伝統的建造物保存地区	41
表2-6 温泉地数	41
表2-7 最も行ってみたい温泉地ベスト50	41
表2-8 最も印象の良かった温泉地ベスト50	41
III 東北地方における観光客の入込み状況	42
表3-1 東北各県における観光客延べ入込み数の推移	42
表3-2 東北各県における延べ宿泊者数の推移	42
表3-3 東北方面への修学旅行実施状況	43
表3-4 東北の主要夏祭りの動向	44
IV 国際観光の状況	45
表4-1 州別、国・地域別訪日外国人旅行者数の推移	45
表4-2 訪日外国人 地方別訪問率の推移	46
表4-3 東北各県における外国人延べ宿泊者数の推移	46
表4-4 平成23年度都道府県別旅券発行件数	47
表4-5 東京から列車利用による最速乗車時間	48
表4-6 東北の空港からの路線	48
表4-7 東北地方における国際会議開催件数の推移	49
[参考] 東北の「日本一」「世界一」等“とっておき”観光資源	50

【参考資料1】震災後の観光復興に向けた取組み

I 東北運輸局関連の主な取組み

① 緊急対応

ア) ホテル・旅館の被害状況の把握及び宿泊者の安否確認

震災当初から、管轄する政府登録旅館に対し、電話やFAX、メール等のあらゆる情報ツールを駆使して連絡を試み、施設の被害状況把握や宿泊者の安否確認などを行ったが、停電や電話回線の不通等により、大きな被害を受けたエリアはもとより、日本海側の一部を除いてほとんどの地域において連絡が不能の状態であった。約10日間で9割以上の施設とは連絡が取れ、平成23年3月末までにはすべての宿泊施設の被害状況を確認した。

その後、連絡が取れてからは、営業状況に加えて、ガスが不通となり多くの方々がお風呂を求めていることから、日帰り入浴の受入可否等に関する情報収集も行った。

イ) 主な観光施設の被害状況の確認

ゴールデンウィークを控え、正確な情報の発信による首都圏等からの出控えムードを一掃するため、各県の主な観光施設の被害状況や会館状況に関する情報収集も行った。

平成23年4月初旬には、観光庁とともに被災地に入り、現場を確認し、その後観光関係者と直接懇談を行いながら、観光復興に向けた意見要望の取りまとめや再開に向けたアドバイスをを行い、現在も継続している。

その結果、宮城県の松島等は、太平洋沿岸部が壊滅的な被害を受けた中で、小さな島々が波消しとなって、幸いにもさほど大きな被害を受けることなく、主な観光施設についても、いち早く復旧が進み、ゴールデンウィーク前にはほとんどの観光施設がオープンすることができることを確認した。

ウ) 災害救助法適用によるホテル・旅館への二次避難に関する周知等

災害救助法の適用を受けた地域住民の方々については、各地域の一時避難所のみならず、希望があれば受入を表明しているホテル・旅館に避難することが可能となっており、食事の提供も国費で賄われることとなった。

本来であればこれらの業務は厚生労働省の所管であるが、こうした非常時において多種の業務により煩雑になっていることから、観光庁及び東北運輸局においても、それらの業務に対する支援協力を行うこととなった。

観光庁では、主に二次避難者の方々を受け入れ可能なホテル・旅館の把握と二次避難者の方々の希望とのマッチングを行うこととし、東北運輸局では、そうした制度を有効に機能させ、被災を受けられた方々にもそうした情報を隅々まで把握していただくために、地方公共団体等への周知徹底、マスコミ等への情報提供等を行った。

しかしながら、震災後の緊急対応の最中であったこともあり、末端の一時避難所等においては、情報が氾濫し、それらの情報を消化しきれない状況にあり、高齢者の方々を中心に情報が十分に伝わらなかったことが挙げられる。一時避難所には、ホテル・旅館への二次避難に関する情報が行き届いていたはずであるが、初めのうちは無償でそうし

た施設に入れるということに対し、避難者の側において情報に対する不信感等から、なかなか利用してくれなかったり、二次避難を2泊くらいしたのち勝手に帰ってしまったり、なかには被災地の周辺にいないと仮設住宅が優先的に手配されないなどの心配等から二次避難をせずに不自由な避難所に留まる避難者も見られるなどの事態も生じた。

このような状況は、徐々に制度が浸透するにつれて問題も解消し、利用者も大幅に拡大したが、情報をより避難者にわかりやすく伝えることにより、未然に防げたかもしれない、反省すべき点である。

エ) 二次避難者の受入可能施設数(ホテル・旅館)及び二次避難者数の把握

二次避難者の数の把握について、毎日、県を通じ状況把握に努めた。

この際の課題としては、通常連絡を取り合っている県の担当部署（観光関連セクション等）ではなく、災害対策関連のセクションが担っているケースが多かったり、担当セクションが不明であった場合もあったため、状況把握の確認に時間を要した。

また、県の災害対策のセクションも多忙であり、毎日の情報提供には対応するいとまもない状況であった。

オ) 観光関係者へのヒアリング

被災状況については、電話等での確認のみならず、直接お会いしてヒアリングを行うことも重要であるとの観点から、震災の約3週間後に、ホテルや旅館の被災状況や経営状況等について関係者から直接話を伺う機会を設けた。

具体的には、平成23年4月3日に国際観光旅館連盟の東北支部長等を招いて、東北運輸局において、観光庁と東北運輸局による懇談会を行った。

その際に、各県施設の直接的な被害状況やキャンセル状況などが報告され、この先の旅館経営の見通しが全く立たないなどの状況を把握することができた。

さらに、今後の国に対する要望として、復旧経費の低金利による貸し出し制度の創設、旅行エージェントに対する東北に向けたツアー造成の協力要請等が寄せられた。

カ) 現地調査及び視察対応等

被害状況や今後のニーズを把握するため、観光地や施設を訪問し、直接状況を把握することが重要であるため、観光庁等とともに、現地視察等を多く行った。

② 復興への取組み

震災により大きな打撃を受けた観光を、早急に復興させるため、地域の観光関係者等と連携をし、様々な取組みを行っている。以下に、それらの取組みの例を記載する。

ア) ワーキンググループの開催

観光復興にスピード感を持って取り組むため、東北観光推進機構・東北経済連合会・仙台商工会議所・観光関係各団体をメンバーとしたワーキンググループを設置（平成23年3月29日）し、以後週1度のペースで会合を開き、情報共有や復興に向けた取組みについて議論してきた。その中で、実現された主な取組みとしては以下のとおりである。

● 観光復興スローガン、ロゴの決定

平成23年4月20日、観光復興に向けた連帯の象徴となるスローガンとロゴを決定し、缶バッジ・ステッカーを作成するとともに運輸局ホームページからダウンロードできるようにした。



● 観光復興ポータルサイトの開設

平成23年4月27日、東北の観光に関わる正確な情報等を発信するため、復興関連情報に特化したポータルサイトを東北観光推進機構が中心となり開設した。英語・韓国語・中国語（繁体字及び簡体字）にも翻訳。



● JR 東日本とのタイアップによる情報発信

平成23年6月1日から首都圏を中心としたポスター展開、山手線への中吊り広告、「トランヴェール」誌への広告掲載など時節折々の広告を継続的に展開した。

● 復興プロジェクトの実施

平成23年4月29日（金・祝）のプロ野球球団・東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地開幕戦を、震災からの復興に向けたターニングポイントとして位置付け球場外に東北の食と観光のPRブースを設置し、復興に向けた情報発信を行った。



● 首都圏キャラバン

平成23年5月25日～26日、東北各県の女将さんやキャンペンクルーの方々とともに、東北地方への誘客をアピールするため、首都圏キャラバンを実施した。
※主な訪問先：国土交通大臣、観光庁長官、旅行会社、新聞社等

● 東北6県物産展

平成23年7月8日～10日、首都圏主要6駅において、東北6県の物産展を開催し、誘客と風評被害の払拭に向けたPR等を展開。

● 10.16チャリティライブ

東北観光親善大使である MONKY MAJIK に



よる東日本大震災復興支援プロジェクトチャリティライブ「SEND 愛」において、各県・各観光圏のパンフを配付、併せて1000名に対しアンケートを実施し回答者には抽選で各観光圏からの名産品等を贈呈した。

● 内閣総理大臣訪問

平成23年10月21日、東北各県の女将が、東北の元気と東北への誘客をアピールするため総理へ訪問した。

イ) 各県における観光・交通関係者との意見交換会

震災後、平成23年5月初旬には、観光庁とともに被災地を直接訪問し、地元観光関係者との意見交換会を行った。さらに、平成23年5月中旬には、観光庁の幹部が東北各県において、観光や交通の関係者との意見交換会を実施した。出席者からは震災による観光施設の被害の状況や風評被害による旅館・ホテルのキャンセル状況などが報告されるとともに、交通関係の早期復旧や東北の物産や観光地の安全性のPR、需要創出に資する観光イベントの開催などの要望が多数寄せられた。それらのご要望が、その後の施策の構築や補正予算につながった。

ウ) 国際的な観光需要創出に向けた調査事業

東日本大震災やその後の原発事故等により国内外からの観光需要が著しく落ち込んでいる地域等において、地元関係者との連携により、観光需要を創出するための調査事業を実施した。事業内容は、以下の通りである。

● 事業内容

・運営委員会(県単位)の設置・運営

国、地方公共団体、県内観光関係者等により構成される運営委員会を設置し、本事業の実施に関する検討・調整を行った。

・県内の地元関係者との連携による取組みの実施

当該県内の各地域において、地元関係者との連携・協力により国内外からの観光需要の創出に効果的な取組み(多言語対応や外国人向けプログラムの実施といった外国人観光客の来訪促進に資する内容を盛り込んだもの。着地型旅行商品の造成、観光イベントの開催等)を企画・実施した。

・アンケート調査の実施

上記の着地型旅行商品や観光イベント等に参加した観光客(外国人を含む)に対して、来訪動機、満足度、再来訪意向等を調査するため、アンケート調査(多言語対応)を実施した。

エ) 東北地方の夏祭りを契機とした観光復興支援

震災による風評被害を払拭し、観光振興により地域を元気にするため、夏祭り等の観光客が集中するイベントの実施に際し、外国人観光客の受入環境整備を緊急に実施した。

東北6県の夏祭りにあわせて、以下の取組みを実施し、外国人観光客の参加を促進す

るとともに、地域のイベントを盛り上げることにより、震災復興を支援した。
具体的な取組み内容は、以下の通りである。

● **祭りに関するホームページの整備**

- ・多言語（英語、中国語繁体字・簡体字、韓国語）に対応したホームページの作成

● **パンフレット・リーフレットの整備**

- ・多言語に対応したパンフレットの作成
- ・会場周辺の飲食店等を紹介する多言語マップの作成

● **インフォメーションセンターの設置・運営**

- ・通訳スタッフの配置
- ・多言語に対応した電子掲示板等の設置
- ・多言語対応のコールセンターの運用
- ・留学生等による案内サポーターの配置

● **案内看板・サイン等の整備**

- ・多言語案内サインの設置

● **外国人観光客のイベント参加等が可能となる体制**

- ・祭りに参加した外国人旅行者の様子を Web サイトで配信
- ・お祭りの状況を Web サイトでライブ配信
- ・ツイッターやフェイスブックを通じ、祭りに参加した外国人旅行者の感想を発信
- ・浴衣体験(貸出し・着付け) サービスの提供



オ) **ビジットジャパン地方連携事業**

海外のメディア、旅行エージェント等を招請し、東北の観光スポット等取材し、東北の安心、安全性について理解を深め、正確な情報を海外に発信した。

平成24年2月には「VISIT JAPAN 東北 復興祈念2011年度」事業として、韓国・台湾・中国・香港・タイ・シンガポール・米国から、旅行エージェント及びメディアのキーパーソンを招請。震災後における東北の観光スポットを視察する東北視察ツアー、交流商談会等を実施し、安全・安心をPRするとともに、魅力ある観光資源・観光ルートを発信し今後の着実な誘客を図った。

カ) 受入環境整備サポーター派遣事業

震災以降の外国人旅行者の誘客と観光振興を図るため、東北地方に留学している外国人学生を「受入環境整備サポーター」として観光地に派遣し、案内・誘導表示の整備状況や観光情報の提供状況などの受入環境を確認するとともに、訪問した観光地で感じた観光資源の魅力を母国等に向けてツイッターやフェイスブック、ブログ、動画サイト等を通じて外国語で情報発信。

キ) 外国人旅行者の移動容易化のための言語バリアフリー化事業

東北の4地域において外国人旅行者の移動を容易化し言語バリアフリーな移動環境を実現するため、交通拠点から目的地に至るまでの行程において、外国人旅行者に言語面での障害を感じさせないよう、交通拠点及び目的地における案内表示等に加え、車内放送、バス停のナンバリング等様々な手段を用いて点から線への多言語対応を実施した。

ク) 地域再生のための観光業支援事業

東日本大震災及びその後生じた風評被害により甚大な被害を受けた地区・集落を対象に、地域の核となる市町村と協働し、コミュニティを支える観光業を支援する観点から、地域の課題、ニーズ、問題意識を踏まえた相談・アドバイスをを行い、地区・集落単位での地域の再生を図ることとした。以下に、施策の内容等を記載する。

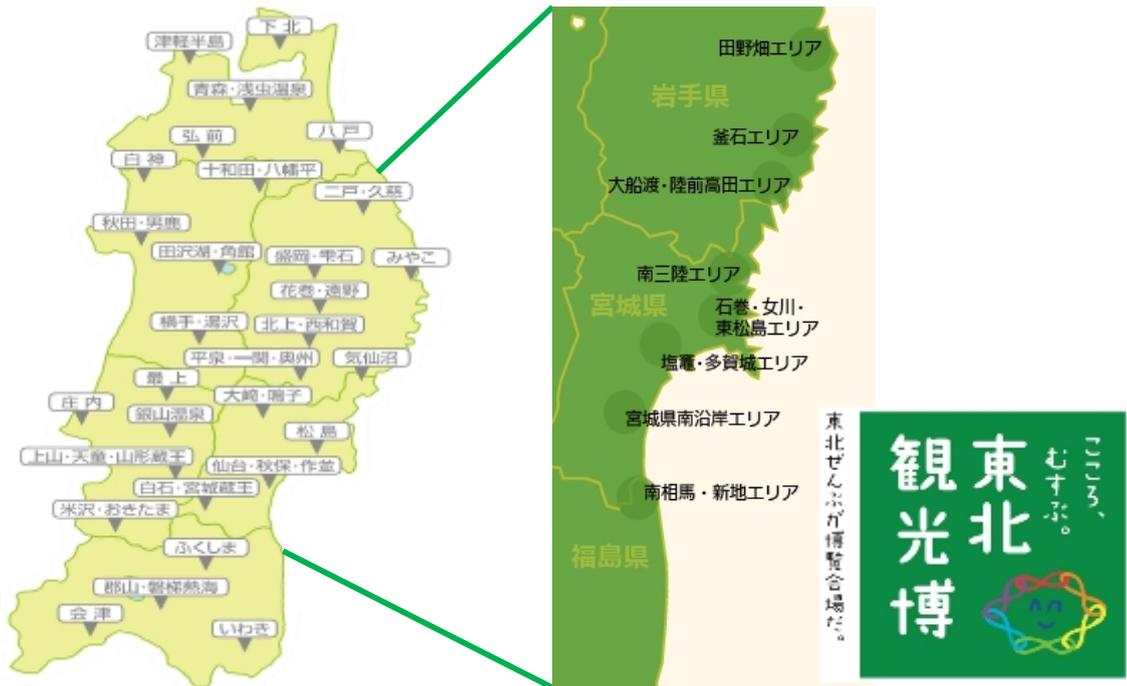
- ・地域の課題やニーズ等を調査し、その結果を基に地域のニーズや実情を加味して専門家を人選し、観光業支援チームを地区等に派遣する。
- ・そして、地域再生に向けた相談・アドバイスを実施する。
- ・その後、地域再生の核となる市町村が主体となり、地域再生に向け継続的に地区・集落の取組みをフォローアップしていくものとする。
- ・選定された地区・集落
 - <岩手県>
 - 久慈市（小袖地区等）／岩泉町（龍泉洞地区等）／平泉町（長島地区等）
 - <宮城県>
 - 仙台市（作並・秋保温泉）／松島町（松島海岸）／白石市（中心市街地地区等）
 - <福島県>
 - いわき市（いわき湯本地区等）／福島市（高湯温泉）／猪苗代町（葉山地区等）

ケ) 東北観光博

東北地域全体を博覧会会場と見立てて、東北地域への送客を強化するとともに、東北の主要な観光地域30カ所程度を核となる「ゾーン」として設定し、「地域観光案内人」

の配置、地域独自の観光コンテンツの提供等を行い、地域が主体となった持続的な取り組みの定着を図ることを目的に、平成24年1月に東北観光博を開幕した（平成24年3月には28ゾーンで本格実施となった）。

太平洋沿岸エリアは復興関連情報の発信等も支援し、平成24年8月には震災を乗り越え、地域の方々が主体的に観光客誘客に取り組んでいる「みやこゾーン」を新設、さらにその後「気仙沼ゾーン」も新設し、平成24年9月15日現在30ゾーンで実施している。



コ) 正しい観光情報の発信

東北観光ポータルサイトによる、東北の復興・観光情報を適宜、多言語に翻訳し、海外に対して正しい情報の発信を継続している。

また、海外からメディアを招請し、震災後の東北の観光スポット等取材し、安全性の理解を深め、正確な情報を発信することで、東北への今後の着実な誘客に繋げる。



サ) 訪日外国人旅行者の受入環境整備事業

外客受入地方拠点として選定された平泉、仙台・松島、会津若松の3地域に加え、弘前、田沢湖・角館地域を新たに選定し、国・地方公共団体・民間事業者等が連携し、受入環境の整備・充実を総合的に推進した。

具体的には、地域自らが最も必要としている受入環境・整備を実施することにより、地域の受入環境の向上と全国的な受入環境整備の底上げを目指した。

訪日外国人旅行者に対しては、旅行に必要な実践的な情報を提供することによって訪問への障害を解消し、誘客につなげることを目指した。

平成24年度外客受入地方拠点プロジェクト概要

田沢湖・角館

歴史的な街道の東端の代表的観光地の街並み整備の充実

田沢湖・角館それぞれの観光地を一つの観光地地域としてとらえ、鉄道駅周辺サインと街並み整備を一体的に整備することにより、各観光地での移動を容易にすることで、2つの観光地の効果的かつ充実した集客の実現を目指す。

会津若松

豊富な歴史料産を活用し、地域のおもてなし環境の整備

豊富な歴史料産を活用し、外国人旅行者向けに飲食店の情報や観光情報提供ツールを作成するとともに外国人旅行者を案内する地域の産業観光の発展に、受入環境を整備することのできる対応でメニューも整備することで受入環境の向上を図る。

弘前

コンパクトな都市における歴史型観光の実現

観光スポットが一定エリア内に集まっている地域で、しっかりと足を止めて観光を楽しんでもらうためのツールを準備することにより、滞在時間の延長を図る。モデルコースや飲食店情報等を盛り込みながら、職種によって提供される趣向を考慮した観光案内プランを作成する。

平泉

世界遺産をより身近にするための案内ツールの提供

世界遺産と美しい景観をもつ平泉での観光を十分に楽しんでもらうために、平泉の歴史的背景や世界遺産についての詳細な情報を外国人観光客が読みやすい、解読しやすい案内ツールを作成し、利便性の向上を図る。

仙台・松島

外国人旅行者が緊急時に対応できるサポート環境の整備

安心して観光を楽しんでもらうために、地震や災害等、困難な状況に遭遇した際に必要な情報を迅速に提供できるツールを整備する。特に東日本大震災での経験から、災害時に提供されるアクセスを踏まえ、外国人旅行者が必要とする情報を提供する。

シ) 東北・北関東への訪問運動

震災から1年を経過したことを契機として、東北・北関東の復興を継続して支援するため、政府を挙げて東北・北関東へ訪問することでその復興を支援する運動を進めるとともに、地方自治体、民間事業者、団体等にも広く呼びかけており、東北地方にもこれまで「復興応援ツアー」「ボランティアツアー」等で数多くの企業、団体等の訪問があった。

東北・北関東への訪問運動

資料4 観光庁

- 運動の趣旨**
東日本大震災から1年を経過することを契機に、国民が一体となって、東北・北関東を訪問することにより、東北・北関東の復興を応援する国民運動を起こす。
- 運動の展開**

〇賛同する民間独自の取組みの募集		
〇各府省の取組み	〇民間団体の働きかけ	HP等で国民へPR
<ul style="list-style-type: none"> 東北・北関東における政府関連の会議や各種事業の連携強化 各関係者庁連絡会議において実務的な検討 	<ul style="list-style-type: none"> (例) 東北観光機(国土交通省) 「大船橋自治会館に関するバリエーション企画(1月・定例集客市 県・福島県)」(外務省) 被災地産物の消費拡大(食べたて)フェア(復興産業) 三陸復興国立公園(仮称)に係る取組の推進(環境省) 東北地方での自衛隊イベント開催(自衛隊(防衛省)) 在外公館等を通じて東北の魅力を海外に発信(外務省) 	<ul style="list-style-type: none"> 民間団体等の会合・イベント等の東北・北関東開催の働きかけ (例) 「新道県民生活衛生営業指導センター-理事委員会(3月・福島市)」 「新道県民まつり(9月・教育全国大会(7月・郡山市)) 「鉄道フェスティバルin東北(10月・仙台市)」 「観光局のオアシスSaaSプラットフォーム全国大会(10月・いわき市)」

【参考】日本再生の基本戦略(平成23年12月24日閣議決定)(抄)
 〇東北復興(仮称)や被災地応援ツアーの開催
 東北観光機(仮称)開催等を通じ、国民運動的に東北旅行の需要を喚起し、東北地方と観光客の交流を進めることなどにより、東北地方の活性化を進める。

東北・北関東を訪問して復興支援しよう!

ホーム ? 訪問運動とは 関係府庁の取組 賛同団体の取組 賛同団体になるには

政府インターネット:

Topics トピックス

- 12月20日(水)政府インターネットで「復興も未来の拠点は「グリーン」に切り替わります」
- 11月1日(水)関係府庁の取組を掲載しました。

II 関係団体の主な取組み

(1) 東北観光推進機構

① 震災時の観光に関する状況

国内延べ宿泊者数は、震災直後の平成 23 年 3 月、約 52%減(対 22 年比:観光目的 50%以上の施設)に落ち込むとともに、観光施設等も余震の影響や花見等の自粛ムードにより、観光需要は大きく減少した。また、外国人宿泊者数は、平成 23 年 4 月を底に、その後回復しつつも全国に比較し戻りが遅れている。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み

東北観光推進機構が事務局となり、東北運輸局をはじめ観光関係機関とともに「東北観光復興 WG」を震災後直ちに設置(平成 23 年 3 月 29 日)し、「情報発信」「旅行機運の醸成」「誘客・送客支援」の 3 つの戦略で観光復興を図ることとし、以下の具体的な施策を展開した。

ア) 情報発信(風評被害の払拭)

●観光復興に情報に特化した東北観光復興ポータルサイト(4 言語)の開設

●国内外のマスメディアによる情報発信[TV5 本、ラジオ 3 本、新聞等]

●海外エージェント、海外マスメディアへの情報発信(7 ヶ国、14 都市)

震災後、平成 23 年 5 月より速やかに誘致対象国を訪問し、震災支援に御礼及び正確な東北の状況を伝えた。

●在京メディアおよび海外メディアの招請による情報発信(11 事業)

震災後の東北を取材して頂き、自国の一般消費者に広く発信。

●首相官邸、官公庁、エージェント、マスコミ等キャラバン(11 件)



イ) 旅行機運の醸成(自粛ムードの払拭)

●国内外の旅行博への出展やイベントの開催(18 事業)

「東北を旅して応援する」という機運を醸成するため、一般消費者向けの出展等を行った。

●国内外エージェント、海外メディア、教育関係者等招聘事業(16 事業)

●国内シンポジウムの開催(関西、九州の 2 都市)

一般消費者向けシンポジウムとして、復興ツーリズムや東北への旅行商品を紹介した。

●東北教育旅行セミナーの開催(首都圏、関西圏)

教育関係者・旅行会社を対象に、東北教育旅行の事例発表及び防災学習プログラム等のセミナーを実施した。

●JR 東日本とのタイアップ

首都圏等ポスター展開(375 駅)、山手線への中吊り広告、「トランヴェール」誌掲載等



ウ) 誘客・送客支援

●「もう一度東北! もう一泊! 東北福幸キャンペーン」

東北の旅館に宿泊した旅行者 1,000 名様に、もう一泊東北のお勧め旅館に泊まれるキャンペーンを 5 旅連と協同で実施した。応募数 18,213 通。

- 広域連携プロジェクト、「がんばろう日本」連動企画及び東北観光博などモニターツアー実施。合計 15 コース 1,000 名に震災後の東北を体験していただいた。



③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

- デスティネーションキャンペーンや大河ドラマ等のメディア効果を東北域内へ広く拡大することが必要。
- 震災後、変化したマーケット(地域、年代層、旅行形態)に対する的確な対応が必要。
- 被災地の風評被害や震災の風化に対する「復興ツーリズム」など新たな旅を創出。

(2) 社団法人 日本観光振興協会 東北支部

① 震災時の観光に関する状況 (H23-H24)

復興支援事業として

ア) 被災地の調査及び情報の提供を全国観光情報サイト「全国旅そうだん」で行うとともに自治体の最新観光情報の更新のためのサポートを実施した。

イ) 支援のための各種会議「東北支援の集い」(東京)、「本部通常総会」(仙台)、「都道府県・政令都市観光協会(連盟)会長等会議」(盛岡)(福島)、「観光で復興を。仙台シンポジウム」(仙台)(山形)、WTTTC グローバルサミット(仙台)等を開催し、被災地への支援及び福島原発風評被害の払拭を訴えた。



② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み (H23-H24)

ア) 東北復興モニターツアーの実施

「がんばろう!日本」ポータルサイトにて募集、実施した。

イ) 人材育成研修の実施

「災害時初動対応セミナー」「アジアインバウンドセミナー」「産学連携オープンセミナー」のほか、「接遇&マナー研修」「観光まちづくりプラットフォームの事業運営人材育成研修」「観光経済マネジメント研修」等を実施した。

ウ) 国内旅行客の拡大

- 「JATA 旅博」や「旅フェア」に出展し誘客宣伝を行った。
- 関東、関西、中国支部主催の観光展において東北支援のための誘客活動を行った。
- 千葉県、三重県、山梨県等の観光協会から復興支援策としての送客を受けた。
- 美化プランターを各地区に配布し観光地の美化に協力した。

エ) 訪日旅行客の拡大

「東北プロモーション in 台湾」を高雄、台中、台北の3地区で実施。「台北国際旅行博 ITF」「台北国際観光博覧会 TTE」への出展したほか「東北の春」誘客の目的で台湾 MRT ラッピング広告・車内広告及び台湾自由新報広告掲載等により、台湾からの誘客に積極的に取り組んだ。

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

ア) 国内旅行客の拡大

「東北観光博」「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン (DC)」「秋田 DC」「新潟 DC」「山形 DC」「八重の桜」「平泉」等による誘客機運の持続と拡大及び観光展での誘客に努める。

イ) 訪日旅行客の誘客と拡大

「台北国際観光博覧会 TTE」「台北国際旅行博 WTTC」への出展及び台湾での「東北プロモーション」を積極的に展開し、台湾からの旅行客の拡大を図る。

(3) 一般社団法人 日本旅行業協会 (JATA)

① 震災時の状況

ア) 東北支部会員数 37 社 (営業所数 223 店舗) 9 社 26 店舗が閉鎖又は、電話のみの対応となった。

イ) 大手旅行会社のパッケージ旅行 平成 23 年 4 月、5 月の国内旅行の予約状況が 20～45 ポイント減 (対前年比) 同じく、海外旅行平成 23 年 4 月、5 月の予約状況 20～45 ポイント減 (対前年比) になった。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み

ア) JATA 東日本大震災からの復興に向けた宣言

平成 23 年 4 月 15 日、JATA では、一日も早い復興に向け、業界全体で支援するための宣言を内外に向け発信した。(復興に向けて主に 4 つの重点支援策を宣言)

- 「日本を元気に、旅で笑顔に」を合言葉に、内外に日本の復興をアピールします。
- 復興に向け地域の状況に応じて旅行の促進をはかり、「旅の力」によって人や社会が元気になるよう力を尽くします。
- 海外からの支援に感謝し、元気な日本をアピールするために海外旅行を促進します。アジア最大規模である JATA 旅博 (旅博) 2011 (東京、9 月 29 日～10 月 2 日)

を予定通り開催し、被災された地域の復興のためのイベントを併せて実施します。
●夏の長期休暇取得を支援する旅行スタイルなど、節電への取組みに対応する施策を推進します。

イ) 東北復興支援プロジェクト「行こうよ！東北」

平成24年12月3日(月)～4日(火)東北6県に28の研修コースを設定し、旅行会社や各国大使館、観光局、メディアも含め、あわせて約120の団体、1000人規模の視察団を送り込んだ。

この研修では、プロの目を見た東北の魅力を旅行商品開発・造成に活かし紹介していくこととし、観光振興による東北復興支援を目的としたもので現在も継続中である。



上野駅結団式の様子



青森県庁での歓迎セレモニー



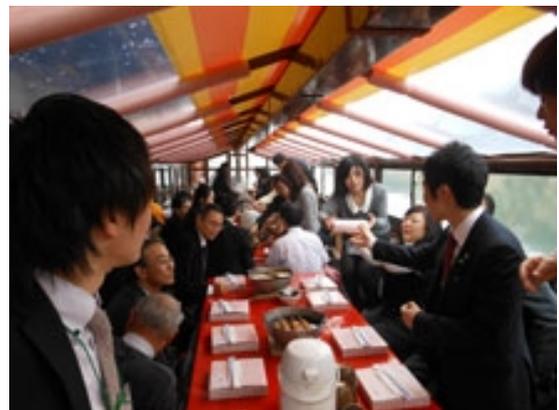
田沢湖駅でオモテナシ3兄弟のお出迎え(秋田県)



三鉄車内で熱心に説明を聞く参加者(岩手県)



仙台荒浜地区で「畑の土おこし」のボランティア活動(宮城県)



冬の最上川「こたつ舟」での昼食(山形県)



いわき ら・ら・ミュウでの意見交換会（福島県）



福島駅では ゆるキャラのお出迎え

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

震災の復興支援活動の継続を掲げ、地域限定旅行業新設・着地型旅行の普及・宿泊旅行の拡大等を推進して、地域での新たな旅行需要の創出に取り組んでいく。

(4) 一般社団法人 日本旅館協会 東北支部連合会

① 震災時から現在までの状況

- 宮城県では電話回線が繋がらず、会員の被害状況の把握に1週間ほどの時間を要した。
- 岩手県の沿岸部を中心に全壊した会員数も多く、その多くが廃業に追い込まれた。一部会員は営業の存続を希望したが、宿泊の営業再開までには1年～1年半の時間を要した会員も多い。
- 東日本大震災からはほぼ2年を経過しようとしているが、観光の宿泊客数は震災前の平成22年に比しても2割から3割減しているのが実情。地震による実害がほとんどなかったが風評被害の影響を大きくうけた、青森県・秋田県・山形県の宿泊施設は現在も苦戦している。
- 平成23年度は宮城県・岩手県は復旧関係者が宿泊の大層を占めた。平成24年度になり観光客も戻り始めているが、震災前には戻っていない。
- 福島県は現在も大変厳しい環境にあるのが実態である。これからも原発に関連したニュース等が継続して放映されると思われ、観光復興の展望が見いだせていない。東電による原発補償により、なんとか廃業までには至っていないが、観光客が戻ってこない厳しい環境が継続すると思われる。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取り組み

ア) 当組織は直接的に観光客誘致に取り組む組織ではなく、東北観光推進機構や東北運輸局との連携を強め、必要により会員への誘致キャンペーンへの参画の要請や国の復興支援策も含めた確かな情報提供等を中心に取り組んできた。

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

- 東北南3県は首都圏・関東圏からのお客様が多く、それだけにその減少分を東北域内の人々で補えていない。東北域内での宿泊客が多い東北の特殊性から、経済が回復しない中では、今後とも厳しい実態が続くと思われる。
- 首都圏・関東圏に目を向けた誘致活動も必要だが、東北域内での相互交流が極めて重要と考える。各県の行政の支援（補助金等）も絡めた取組みを期待したい。
- 相当数の方がボランティア活動に参加されているが、その方々が復興を成し遂げた東北の地を観光として訪れることを期待したい。
- JRや高速道路料金等大胆な施策が行われない中では、観光復興の起爆剤は見いだせ得ていない。通常のキャンペーンでは費用対効果の期待ができないと考える。
- 風評被害を克服するためには、JRの東北新幹線半額や高速道路の無料化等、国の予算を活用し大胆に、ダイナミックに国民に訴える取組が今こそ必要と考える。

(5) 社団法人 日本ホテル協会 東北支部

① 震災時の観光に関する状況

お客様・従業員の負傷はなくホテルにおける火災事故もなかった。しかし、支部会員ホテルのベリーノホテル一関（一関市）・石巻グランドホテル（石巻市）等では地震及び津波による被害で施設本体に大規模なダメージが生じ、一時閉館しリニューアルオープンまで4～5ヶ月間の休業となった。他のホテルも建物・施設に被害を受けるなど、ライフラインの復旧に時間を要し一定期間の休業するホテルが多く見られた。

そのような中で地震直後、観光客はもちろんのこと帰宅困難者の受入や外国のお客様への対応や避難施設への炊出しなど自主的に行ったホテルが多く見られ、社会的にも大災害時における町の機能の一部としてホテルの役割を果たすことができた。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み

ア) 災害復旧・復興への緊急要望の提出

震災での被害は上記に記載したが、東電の原発事故による風評被害や災害復旧の遅れにより観光客減少に悩まされ全国的に減収傾向が見られた。社団法人日本ホテル協会本部より民主党国土交通部門会議及び中小企業対策連絡本部に対して「東北地方太平洋沖地震による被害復旧・復興への緊急要望」を提出し、行政機関や観光諸団体と連携して観光客誘致に努めた。また、日本ホテル協会東北支部としては、災害発生後8ヶ月後に震災の対応やその後のお客様の動向について意見交換を行った。その後も定期的に、震災後の対応や現況について意見交換を行い情報の共有化等に努めている。

イ) 被災者・避難者支援プラン

全国の会員ホテルで被災者・避難者を対象に支援として特別料金プランで東北地区への宿泊プランを設定し、その一部を義援金として被災者・避難者支援を行うとともに、被災地への誘客に努めた。また、各ホテル独自の被災者支援施策も行った。

ウ) がんばれ東北応援プラン

全国の会員ホテルで「がんばれ東北応援プラン」として、宿泊プラン・レストランで対象メニューご利用額の10%を義援金として寄付するプランや被災地域へのボランティア予定者を対象に特別宿泊プランを設ける。現在も東北支部内の一部ホテル（ホテルメトロポリタン仙台・山形・盛岡、ホテル青森）で応援プランを継続しており、観光客誘致と被災者支援に努めている。

エ) 意見交換会の開催

前記したが震災後8ヶ月、1年が経過した時点で日本ホテル協会東北支部加盟ホテルで当時の報告及び現状を発表し、今後の対応について意見交換を行った。

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

●インバウンド拡大に向けた誘客キャンペーンへの参加

東北地区における海外観光客の大幅な減少に伴い、行政や東北観光推進機構、旅行代理店等と協力しながら、東北への観光客誘致に具体的な取組みが必要である。そのために海外、特に重点地区に業界としても継続的にプロモーション活動を積極的に取り組むとともに、関係機関と連携して海外にも通用する広域観光ルートを設定することが肝要である。

●デスティネーションキャンペーン等に関するプロモーション活動による活性化

国内最大の大型観光キャンペーンであるデスティネーションキャンペーンが震災後東北各県で開催され、今後も予定されている。また、東北観光博も開催され被災地は元気であることや観光客に来て頂くことが活性化に繋がることが実証されている。東北六魂祭も東北の県庁所在地で開催されている。これらの大型観光キャンペーンと連携しながら、都市や地域の活性化に努めることが大切である。

●コンベンション誘致等の連携

大型コンベンション開催は国際的なものも含めてホテル業界にとっては非常に大切なことである。行政や関係機関と連携しながら、コンベンションの誘致に積極的に連携していく必要がある。

(6) 東北六魂祭実行委員会

東日本大震災発災後、東北全体で交流人口が大きく落ち込み、復興に向け、正確な情報発信・誘客回復に向けた取組みを展開することが喫緊の課題となっていた。

このような中で、大震災による犠牲者の鎮魂と東北復興ののろしを上げるために、東北6県の夏祭りが一堂に会する「東北六魂祭」を開催することを目的に、東北6市および各祭り主催団体が実行委員会を設立した。平成23年7月に仙台市ではじめて開催され、約36万人が来場した。平成24年5月には盛岡市で開催され、約24万人が来場した。

なお、開催の様子等の報道は国内外に及び、東北復興をPRすることに一定の効果があった。



東北六魂祭の様子（仙台市）
写真提供：東北六魂祭実行委員会

(7) 東北鉄道協会

従来より、観光客の誘客とおもてなしに力を注いできた東北地方のローカル鉄道は、東日本大震災により長期間運休したほか、運行再開後も風評被害等による団体観光客のキャンセル等が相次いだ。

そこで、東北観光推進機構、日本旅行業協会、全国旅行業協会、東北運輸局等と連携しながら、「東北ローカル線 ご支援・ご乗車 感謝キャンペーン」や「震災復興祈念！ 東北ローカル線イベント列車ツアー」など、全国からの観光客の誘致をはじめとする需要喚起を目的とした様々なイベントを展開している。

A colorful flyer for the Tohoku Local Line Event Train Tour. The flyer is titled "東日本大震災 復興祈念!" and "東北ローカル線イベント列車 ツアーのお知らせ". It features illustrations of various train routes and promotional text. The routes listed include: 秋田内陸縦貫線 (Aomori Inland Vertical Line), 山形鉄道 (Yamagata Railway), 三陸鉄道北リア線 (Sanriku Railway North RIA Line), 山形鉄道 フラワー長月線 (Yamagata Railway Flower Long Moon Line), 山形鉄道 中絶線 (Yamagata Railway Chuzetsu Line), 山形鉄道 山形線 (Yamagata Railway Yamagata Line), 山形鉄道 山形線 (Yamagata Railway Yamagata Line), 山形鉄道 山形線 (Yamagata Railway Yamagata Line). The flyer also includes contact information for the Tohoku Local Line Association and the Tohoku Railway Association.

Ⅲ 東北6県及び新潟県の主な取組み

(1) 青森県

① 震災時の観光に関する状況

平成22年12月4日に東北新幹線が全線開業し、新青森駅をはじめ、県内は歓迎ムード一色に染まった。県内の観光施設等にも多くの観光客が訪れ、開業効果を実感することとなった。

しかし、東日本大震災により、様相が一変し、開業したばかりの東北新幹線が運休止、平成23年3月から5月まで観光客は激減したが、平成23年4月29日に新幹線が運転再開し、青森DCの実施や大型のコンベンションが数多く開催されたこと等から平成23年6月以降震災前の水準まで回復したが、いまだ開業効果を獲得できるまでには至っていない。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み

ア) 青森の魅力の更なる活用

県内各地の観光コンテンツを掘り起こし、その魅力を更に向上させるため、専門家のアドバイスやブラッシュアップ助成金の交付などの支援を行うほか、「観光地域づくりの人財育成」として県内3大学と連携し、青森ツーリズム創発塾を実施した。



青森ツーリズム創発塾

イ) 誘客宣伝の効果的な展開

大都市圏の旅行エージェントに対するセールス活動、時機を捉えた観光プロモーション、教育旅行やMICEの誘致活動を展開した。

震災後いち早く韓国や台湾を訪問し、安全であることを航空会社や旅行エージェント、マスコミに対し、丁寧に説明したほか、バス広告などのPRや韓国ドラマのロケ地誘致などに取り組んだ。



FDA 就航1周年記念イベント

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

観光客の主流である個人客向けの滞在交流型体験プログラムの開発と磨き上げを、県内全域で強化するとともに、個人客に響く効果的な情報発信を展開していく必要がある。

また、東北各県との連携や北海道新幹線新函館開業を踏まえた青函圏としての広域観光の取組みを強化していく。



台湾でのバス広告

(2) 岩手県

① 震災時の観光に関する状況

沿岸 12 市町村に設置されている主要 194 施設（岩手県観光協会発行の「岩手の旅」掲載施設、震災後設置された 7 施設を除く）のうち、115 施設が被災し、11 月末までに 44 施設が営業を再開（仮営業を含む。）、18 施設が修繕中となっている。

平成 24 年 11 月末現在、沿岸部全体で、130 施設が営業中であり、震災前に比べると施設数で約 65%、収容人数で約 75%程度まで復旧してきている。

また、県及び沿岸市町村等が設置した観光施設のうち、46 施設が被災し、平成 24 年 11 月末までに 4 施設が再開、11 施設が復旧に目途がついている。残りの施設については、市町村の土地利用計画との調整が必要といった理由により、復旧に時間を要している。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み

ア) いわてデスティネーションキャンペーン(H24.4～6)

JRグループ6社との共同による「いわてデスティネーションキャンペーン」を展開し、期間中、東北観光博の取組みとも連動しながら、全国に向けた情報発信の強化による旅行需要の喚起、各種イベントの開催等により誘客の強化を図った。

また、観光の力による沿岸地域の早期復興に向けた本県独自の取組として、内陸と沿岸をつなぐ被災地支援金付きの復興応援バスツアーを催行。

現地での震災語り部によるガイドや昼食、買い物を組み込むなど、復興に向けた地域の取組を軌道に乗せるため、沿岸地域への誘客拡大を図った。



イ) 国際観光

東北観光推進機構等と連携し、東アジア圏、豪州、ASEANにおける旅行博の出展や旅行会社・メディア等の招請を実施してきているほか、本県外国人観光客数の約半数を占める台湾からの入込数を回復するため、知事によるトップセールス等を行った結果、平成 24 年度春季及び秋季の連続チャーター便が再開されるに至った。

ウ) 教育旅行の誘致

岩手県観光協会等と連携し、札幌市内の全公立中学校キャラバンや北海道、首都圏、関西圏における教育旅行誘致説明会などを実施した。

特にも震災学習を新たな教育旅行プログラムとして積極的にPRしてきており、今年度、千葉県（チャーター便利用）及び長崎県から、震災学習を主な目的地とする教育旅行の受入を行った。

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

- いわてデスティネーションキャンペーンの実施により観光入込客数は、県全体ではほぼ震災前の水準に回復したものの、県北、沿岸地域を中心に震災前の水準に届いて

いない地域が見られることから、県北、沿岸地域への重点的な誘客促進と、県全域でのさらなる誘客拡大に向け、引き続き各種宣伝、誘客事業を強力に推進する。

- 外国人観光入込客数は、依然、震災前水準の4割程度まで回復してきていることから、引き続き本県観光地の正確な情報を発信し、誘客に取り組む。
- 命の尊厳や震災からの教訓、防災等を学ぶ震災学習は、農山漁村での体験学習や平泉の歴史・文化の学習等と並んで、本県の教育旅行を構成する重要なプログラムの一つになってきていることから、沿岸地域の本格的な観光復興のため、本県への教育旅行の誘致に取り組む。

(3)宮城県

① 震災時の観光に関する状況

我が国観測史上最大規模の地震と、その後続いた大津波により本県全域において甚大な被害を被り、特に沿岸部は壊滅的な状態であり、観光施設においても石巻市の石ノ森萬画館、ホエールランド、女川町のマリパル女川など、主要な観光集客施設が閉鎖に追い込まれた。現在、内陸部では、ほぼ震災前の状態に戻りつつあるが、沿岸部においては、ごく一部の施設が再開している状況である。

宿泊施設は震災直後、全てが機能停止した状態となったが、いち早く復旧した内陸部を中心に震災復興関係者や避難者の受入の機能を発揮した。沿岸部においては数百件の事業者が休業に追い込まれたが、徐々に再開する施設も増えている。しかしながら小規模の旅館や民宿等については、事業再開を断念しているケースも見受けられており、震災前の水準に戻ることは相当困難であろうと考える。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み

ア) みやぎひかりのプロジェクト

～鎮魂、そして温かい絆への感謝を込めて～(23.8～24.2)

県内における「光」をテーマとした主要イベント

(※)の実施をサポートした。

※「東北六魂祭」、松島「松島流灯会 海の盆」、「松島紅葉ライトアップ」、「SENDAI 光のページェント」等。各種のイベントでは、「鎮魂、希望の光 そして 絆 感謝」というプロジェクトテーマのもと、「みやぎ『ひかりのプロジェクト』コーナー」を設置し、参加者に祈りの折り鶴を折っていただくとともに、パネルや写真なども使いながら、宮城のありのままの姿を発信した。



松島流灯会 海の盆

イ) 仙台・宮城【伊達な旅】復興キャンペーンの実施(23.7～24.3)

自粛ムードの蔓延や風評による影響の払拭のため、通年において、正確な観光情報を伝え、観光客の誘致を図るキャンペーンを実施した。



また、むすび丸だよりを発行し、観光関係者等に送るなど、様々な媒体を利用して、正確な観光情報の提供に努めた。

ウ) 仙台・宮城首都圏大キャラバンの実施(23.11)

宮城県内の観光関係者に加え、農林漁業関係者、行政関係者645人が、仙台・宮城の元気の発信と、風評による影響の払拭のため、東京各地でPRを行った。

駅頭におけるキャラバンのほか、旅行会社や企業訪問、食の安全安心のPR、大学での震災学習等、様々な取組みを官民挙げて実施した。



(4) 秋田県

① 震災時の観光に関する状況

震災による建物の損壊など観光施設への直接の被害はなかったものの、自粛ムードや風評等により宿泊施設を中心に本県観光は大きく落ち込んだ。

地震発生後、ほとんどの施設で予約が全てキャンセルされ、その後新規予約が全く入らない状態が続いた。また、停電や燃料不足、旅行会社のツアー募集停止により、4月中旬までほとんどの施設が休業状態となり、従業員の解雇や自宅待機など雇用環境も悪化し、ゴールデンウィーク以降も厳しい状態が続いた。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み

ア) 「ニッポンの笑顔」秋田から！推進事業

- 県内宿泊施設の利用促進と観光消費の回復を図るため、県民向けの宿泊補助券プレゼントキャンペーンを実施した。(プレゼント期間 H23.6月～8月)
- 県外からの誘客を促進するため、旅行会社への送客助成や団体旅行に対するバス代助成などを実施した。(H23.6月～7月) また、新潟・山形県との観光交流を促進するため、スタンプラリーを実施した。(H23.7月～10月)
- 雇用環境が悪化した県内の温泉・観光地等における雇用を緊急的に確保するため、地域の環境美化や受入態勢づくり等を行った。(H23.5月～H24.3月)



イ) 秋田・ソウル国際定期便利利用促進緊急対策事業

韓国人旅行者の利用が激減した秋田・ソウル国際定期便の路線維持を図るため、往復利用した県民を対象に県内宿泊補助券又は県産品カタログギフトをプレゼントした。(H23.6月～8月、H23.12月～H24.3月)

ウ) 台湾からの誘客に向けてのトップセールス

山形県知事と一緒に台湾を訪問し、航空会社に対し東北地方へのチャーター便運航を要請した。

また、旅行関係者との交流会では秋田・山形の魅力をPRし、日本海側を巡る観光ルートを提案するなど、新しい旅行商品の造成を働きかけ、観光客の回復を図る取組みを行った。(H23. 8月)



中華航空において山形県知事と

エ) 秋田デスティネーションキャンペーンの開催決定

国内最大規模の観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン(DC)」の平成25年秋開催が決定し(H23.5月)、秋田新幹線の新型車両「E6系」の導入(H25.3月)、平成26年の国民文化祭開催などと合わせ誘客促進の取組みを強化する。

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

全国的に認知度や集客力が高く、本県観光をリードする地域を重点エリアとして、地域が主体となった観光資源の磨き上げや人材育成等、課題解決に向けた取組みを支援し、その効果を他の地域にも波及させ、秋田DCの成果を一過性に終わらせることなく、観光関係者と一体となってビジネスとして継続・成長していく観光産業の形成を図る。

(5) 山形県

① 震災時の観光に関する状況

震災による県内の観光施設や宿泊施設の大きな被害はなかったものの、自粛ムードと風評被害により、県内旅館・ホテルでは、震災前に入っていた予約の大半がキャンセルされ、新規の予約も全く入らない状況に陥った。

ゴールデンウィーク期間中は県内・近県客を中心に概ね7割から前年並みまで回復したものの、その後は前年比3割～7割程度に落ち込んだが、平成23年6月には前年比7～8割程度まで回復した。

一方、インバウンドについては、各国政府から渡航勧告が出されたこと等から、海外の観光客は、ほぼ皆無となり、その後、渡航制限が解除されたものの引き続き厳しい状況となった。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組み

ア) 「みちのく観光物産市」開催(JR新宿駅)【H23.7/8～10】

「やまがた産直市」開催(JR上野駅)【H23.10/27～29】

平成23年7月8日～20日まで山手線沿線にて「みちのく観光物産市」を開催。山形県は新宿駅においてさくらんぼ等の旬の果物や農特産物を販売した。また、平成23年10月27日～29日までJR上野駅にて「やまがた産直市」を開催。「つや姫」や旬のラ・フランス、お酒等を販売し、大勢のお客様で賑わった。



イ) 香港における山形県プロモーション【H23.11/21～23】

吉村知事をトップとする「香港における山形県プロモーション」を実施、本県への旅行商品造成や本県空港へのチャーター便就航を働きかけた。

交流レセプション「山形の観光と食と音楽の夕べ」では、知事が本県の魅力を紹介したほか、山形交響楽団による演奏や県産食材を使った料理を振る舞った。また、映画製作や美食家として知られるチャイ・ラン氏に外国在住者では初となる「やまがた特命観光・つや姫大使」を委嘱し、現地マスコミからも注目された。



ウ) 日本一「さくらんぼ」祭り【H24 6/23～24】

「やまがた元気プロジェクト」のメインイベントとして、山形市内中心部を会場に「日本一『さくらんぼ』祭り」を開催。七日町大通りでの歩行者天国や文翔館でのイベントでは、さくらんぼのみこしが披露された。歩行者天国には、山形ならではの食や地場製品の販売ブースなどが並んだほか、山形の文化や伝統芸能などを紹介し、多くの来場者に山形の魅力を発信した。



③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

近隣県の入込数はほぼ戻ったものの、首都圏以西の入込みはまだ戻ってはいない。また、平成23年度にはスキー教育旅行のキャンセルが20校延べ16,420泊という大きな影響があったが、その後の戻りも遅く厳しい状況が続いている。

新たな取り組みである「日本一『さくらんぼ』祭り」で山形の魅力を伝えていくとともに、国内外で知名度の高い「おしん」の映画化（H25.10月公開予定）を観光誘客に活用していく。引き続き官民一体となった観光誘客の取り組みを進めるとともに、平成26年の「やまがたデスティネーションキャンペーン」の取り組みにより交流人口の拡大を図る。

(6) 福島県

① 震災時の観光に関する状況

- 県内各地域の観光業関連施設（旅館・ホテル等含む）について、特に海岸沿いのエリアは、津波により施設自体が流されるなど甚大な被害を被ったところが多く、中通り及び会津地域の施設においても、地震により建物が倒壊し、大規模な亀裂や建物の傾斜、電気・機械設備等についても大規模な損壊等が発生するなどした。
- 震災後1年10ヶ月が経ち、個人観光客を中心に回復傾向が窺えるが、教育旅行及び団体旅行は震災前のレベルまで回復しておらず、風評による厳しい状況が続いている。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取り組み

ア) 福島県観光復興キャンペーン委員会設立

- 県及び県内59市町村、マスコミ等98団体で、官民が連携しながら観光復興キャンペーンを計画・実施する委員会をH23.10.28に設立。

イ) 観光有料道路3ライン(磐梯吾妻スカイライン、磐梯吾妻レークライン、磐梯山ゴールドライン)の無料開放

- H23.7.16～11.15 無料開放(442,964台の通行実績)、H24.4.8・4.20～11.15 無料開放(611,306台の通行実績)。(※平成22年度通行実績:232,127台)

ウ) スキーリフト代無料化

- 若年層のスキー場への誘導と本県への誘客のため実施。H23.12.28～H24.3.31(58,973名の利用実績)、H25.1.15～H25.3.31 現在実施中。

エ) 大河ドラマ「八重の桜」関連事業

- 「ふくしま八重隊(13名)」による全国PRキャラバンの実施
- 新島八重特別企画展開催(H24.9.14～11.4:二本松市、白河市)

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

ア) 観光地の正確な情報発信の継続

- 風評の払拭、震災と原発事故の風化防止のため、県内観光の魅力と合わせ、観光地の放射線の正確な情報を、マスメディアやホームページ、各種キャラバン等により、継続的に発信し続けることが必要。

イ) 積極的かつ粘り強い誘客対策

- 放映が開始された大河ドラマ「八重の桜」を好機とした積極的な誘客対策を進め、全国からの誘客と県内全域への周遊促進が必要。
- 観光復興キャンペーン等を行って、「観光地ふくしま」としてのブランドの再生を図っていくことが必要。
- 教育旅行の回復と推進を目的に、官民一体となり教職員や保護者等に対して説明会を開催し、実際に福島に来て、見て、感じていただき、福島の今を伝えていただく取組みを推進していくことが必要。

ウ) 渡航制限の緩和、解除等

- 未だに渡航自粛が発せられている中国の渡航制限の緩和、又は解除が必要。
- 震災以降運休が続いている国際定期路線:上海、ソウル路線については、県のみでの対応では限界があるため、国から関係各国に対する渡航制限の解除要請や正確な情報発信及び宣伝が必要。
- 定期便の再開に向けたチャーター便運航に係る国の運航支援策が必要。
- 国際会議の誘致等、世界に向けて本県の正しい情報や魅力を発信する取組みが必要。

(7)新潟県

① 震災時の観光に関する状況

震災により、平成23年3月の観光入込客数は大幅に減少し、その後も10%を超える減少が続いたが、自粛ムードが概ね払拭された夏季以降は回復傾向が見られ9月からはほぼ前年並みとなった。

また、震災直後から多くの被災者が新潟県に避難してきており、県内の旅館・ホテル等においても多くの被災者の受入を行った。

② 震災後の観光客誘致に向けた主な取組

ア) 23年度の主な取組

○ 新潟県観光復興戦略会議

行政や経済界などで行く新潟県観光復興戦略会議を開催し、震災からの復興のため①観光振興に積極的に取り組み観光プロモーションを推進すること、②経済社会の停滞につながる行事等の自粛を行わないこと、③積極的な外出や旅行を呼び掛け、「楽しくピークカット」することの啓発に取り組むことを宣言した。

○ 夏の観光キャンペーン

夏の外出プランを提案し、ピークカットと連携した外出促進キャンペーンを行うとともに本格的な観光復興に向けて県外からの誘客を促進するため、JR東日本とのタイアップによるキャンペーンを首都圏で展開した。

○ 「うまさぎっしり新潟」秋のキャンペーン

全県でスタンプラリーを実施したほか、新潟県旅館ホテル組合が企画した「にいがた朝ごはん」プロジェクトや、「国際ご当地グルメグランプリ」、「うまさぎっしり博」など食の魅力を全面に打ち出した取組みを行った。



首都圏での中吊り広告



国際ご当地グルメグランプリ



サマースノーフェスティバル

ア) 24年度の主な取組

春に、「うまさぎっしり新潟」～かおりたつ春～として「食」や「花」「発酵文化」等を素材としたキャンペーンを行い、平成26年デスティネーションキャンペーンにつながる春の観光地づくりを進めた。

また、夏には「サマースノーフェスティバル」として、世界一雪が積もると言われる新潟の“雪”を、冬だけではなく夏にも活用した取組みを全県で行った。

③ 観光復興に向けた今後の課題、方向性

平成26年春の新潟デスティネーションキャンペーンや平成26年度末に予定される北陸新幹線開業を見据え、首都圏に加えて関西圏からの誘客促進や、個人旅行化・間際予約化やモバイル化の進展など観光動向の変化に対応した情報発信に官民一体で取り組むこと等により、交流人口の拡大を図る。



新潟デスティネーションキャンペーン
共同記者発表会

【参考資料2】東日本大震災発生後における観光関連施設の状況

I 各県の状況

(1) 各県観光への影響について

県名	影響等	備考
青森県	キャンセル状況 3月:すべてキャンセル 4月:ほぼキャンセル 5月以降:4割程度キャンセル。今後キャンセルが増える模様	3月23日確認
岩手県	・被災直後よりホテル・旅館ともほぼキャンセル ・復旧されたホテルについても、食料・重油の不足、リネン関係の立ち後れにより営業が立ちゆかない状況。 ・上記の状況ではあるが、一部では被災者の受け入れ先、工事関係者の宿としての需要があり混雑している模様。	3月23日確認
秋田県	ホテル・旅館のキャンセル状況 3月14日時点:8割キャンセル 3月17日時点:9割キャンセル 3月23日時点:ほぼキャンセル	3月23日確認
宮城県	(県内ホテル・旅館283施設を対象に電話聞き取り等により調査) ・被災日以降、予約はほぼキャンセル ・ガス、水道などライフラインが未復旧で、燃料や食料等の物資供給も十分でないため、総じて本格的な営業再開への見通しは立っていない。 ・仙台市内や比較的被害が小さい温泉地などでは、広域援助隊や被災者等の受け入れを始めているところもある。	3月24日確認
山形県	・観光客はほぼキャンセル。 ・ホテル、旅館によっては被災者、被災地への救援隊を受け入れている。但し、旅館によっては救援隊が被災直後よりも減少している模様。 ・食料、燃料(重油等)は厳しく、クリーニングも廻らない状況。	3月24日確認
福島県	観光客の入り込みとしてはほとんど入っていない。 一部会津方面の宿泊施設に宿泊があるが、避難した被災者がほとんど。	3月23日確認

資料:東北運輸局による聞き取り調査

(2) 被災三県の震災後における人口の推移

・岩手県

(A)23年3月1日	4月1日	5月1日	平成24年4月1日	5月1日	(B)12月1日	(B)-(A)=(C)	(C)/(A)×%=(D)
1,326,633	1,322,036	1,319,824	1,309,614	1,305,000	1,302,645	▲ 23,988	▲ 1.81

・宮城県

(A)23年2月末	3月末	4月末	平成24年3月末	4月末	(B)11月末	(B)-(A)=(C)	(C)/(A)×%=(D)
2,331,251	2,318,956	2,310,662	2,302,706	2,308,916	2,313,303	▲ 17,948	▲ 0.77

・福島県

(A)23年3月1日	4月1日	5月1日	平成24年4月1日	5月1日	(B)12月1日	(B)-(A)=(C)	(C)/(A)×%=(D)
2,024,401	2,014,603	2,005,800	1,969,852	1,968,284	1,960,523	▲ 63,878	▲ 3.16

資料:各県HPより

岩手県:岩手県の人口と世帯

宮城県:住民基本台帳人口と世帯数

福島県:福島県の推計人口

各県HPをもとに東北運輸局作成

II 宿泊施設の状況

(1) ホテル・旅館の被害状況

自治体名	3月14日11時30分現在確認できた ホテル・旅館の主な被害状況	4月9日10時00分現在確認できた ホテル・旅館の主な被害状況
青森県	人的・物的被害なし 営業を取りやめた他ホテルからの客を受け入れている	人的・物的被害なし 営業を取りやめた他ホテルからの客を受け入れている
	人的・物的被害なし 電気・水道・ガスは全て× 今朝まで5名程ホテル内で待機していたが、午前中のうちに全て退館	人的・物的被害なし 電気・水道・ガスは全て×
	被害なし 3/12 22:00電気復旧により通常通り営業開始	被害なし 3/12 22:00電気復旧により通常通り営業開始
	人的被害なし ボイラー設備破損のため受入れ中止	人的被害なし ボイラー設備破損のため受入れ中止
	人的・物的被害なし 宿泊者はロビーに寝泊まり	人的・物的被害なし
岩手県	電気・ガス・水道× 人的被害なし 宿泊者はロビーで過ごす 近隣住民を受入	電気・ガス・水道× 人的被害なし 宿泊者はロビーで過ごす 近隣住民を受入 → ライフライン復旧・近隣住民受入れ中止
	人的被害なし 建物の壁が一部剥落 電気○・水道○・ガス× 利用できる部屋については順次開放していく予定	人的被害なし 建物の壁が一部剥落 電気○・水道○・ガス× 利用できる部屋については順次開放していく予定
	人的・物的被害なし 燃料・食料の確保が困難	人的・物的被害なし 燃料・食料の確保が困難
	人的被害なし 施設は大幅な損害 4棟中1棟休館 3/14より3棟にて営業再開	人的被害なし 施設は大幅な損害 4棟中1棟休館 3/14より3棟にて営業再開
	建物は壁が一部剥落 ベッドが揺れた関係で室内が一部損壊 35名程がロビーで布団を敷いて過ごす	建物は壁が一部剥落 ベッドが揺れた関係で室内が一部損壊
宮城県	外壁に多少の亀裂 閉鎖中	外壁に多少の亀裂、閉鎖中
	宿泊者全員避難	調度品1/3破損 シャンデリア破損、高層階客室損傷
	被害なし	被害なし
	電気のみ復旧 人的被害なし 水槽の破裂により館内一部フロアで水漏れ	電気のみ復旧 人的被害なし 水槽の破裂により館内一部フロアで水漏れ
	被害なし	被害なし
秋田県	被害なし	被害なし
	電車等で帰宅できない150人程が滞っている模様	被害なし
	人的・物的被害なし	人的・物的被害なし
	被害なし	被害なし
	人的・物的被害なし 交通不能により数名の宿泊者が滞在中	人的・物的被害なし
	人的・物的被害なし 交通機関が遮断されているため 11日からの利用者が引き続き宿泊	人的・物的被害なし
	人的・物的被害なし	人的・物的被害なし
	人的・物的被害なし	人的・物的被害なし
	人的・物的被害なし	人的・物的被害なし
電気○・ガス○・水道× 人的被害なし 壁にひび割れ 宿泊客数名はロビーで過ごす	電気○・ガス○・水道× 人的被害なし 壁にひび割れ	
人的被害なし 館内壁面亀裂十数カ所 グラス類破損	人的被害なし 館内壁面亀裂十数カ所 グラス類破損	
山形県	人的被害なし 壁・スプリンクラーが多少破損 客室・ロビーを開放し300人程度受入れ	人的被害なし 壁・スプリンクラーが多少破損 客室・ロビーを開放し300人程度受入れ
	人的被害なし 配管破損(応急処置にて対応) ロビーを開放し20~30名程度受入れ	人的被害なし 配管破損(応急措置にて対応) 客室・ロビーを開放し300人程度受入れ
	電気復旧 受入れ可能	電気復旧 受入れ可能
	被害なし	被害なし
	人的被害 物的被害なし ライフラインは繋がっている 電車待ちの数名ロビーで待機中	人的・物的被害なし ライフラインはつながっている
	人的・物的被害なし	人的・物的被害なし
	人的・物的被害なし	人的・物的被害なし
	人的・物的被害なし 申し出があれば可能な範囲で受け入れたい	人的・物的被害なし 申し出があれば可能な範囲で受け入れたい
人的・物的被害なし 暖房使用不可 近隣住民の受入れについては可能な限り対応する方向	人的・物的被害なし 暖房使用不可 近隣住民の受入れについては可能な限り対応する方向	
福島県	3/11 22:00電気復旧 水道のポンプ破損 20名程度の大学受験生受け入れ中 人的被害なし	3/11 22:00電気復旧、水道ポンプ破損、人的被害なし
	人的被害なし 物的被害調査中	人的被害なし 物的被害なし
	人的被害なし 壁が多少破損 交通不能者に対しロビーを開放	人的被害なし 壁が多少破損
	人的被害なし 物的被害調査中	人的被害なし 物的被害なし
	人的・物的被害なし 災害時からの利用者が継続滞在中	人的・物的被害なし 災害時からの利用者が継続滞在中

(1) ホテル・旅館の被害状況(つづき)

自治体名	3月14日11時30分現在確認できた ホテル・旅館の主な被害状況	4月9日10時00分現在確認できた ホテル・旅館の主な被害状況
福島県	電気○・水道×・ガス? 館内パイプの破損 壁数カ所に亀裂 宿泊者は近くの避難所へ退避し無事	電気○ ガス○ 水道× 人的被害なし 壁にひび割れ
	貯水槽50t分破損 40室ガラス破損、キッチンの天井落下	貯水槽50t分破損 40室ガラス破損、キッチンの天井落下
	壁破損、ボイラー破損 お湯出ない	壁破損、ボイラー破損 お湯出ない
	通路の壁・天井破損 屋上破損・瓦落下 お湯出ない	通路の壁 天井破損 屋上破損・瓦落下 お湯出ない
	人的・物的被害なし ガス×・水道×	人的・物的被害なし ガス×・水道×
	蛇口使用不可 旧館と新館をつなぐ通路が損壊 入浴のみ対応可	蛇口使用不可 旧館と新館をつなぐ通路が損壊 営業入浴のみ対応可
	屋上看板落下 大浴場の壁・天井落下 客室窓ガラス破損	屋上看板落下 大浴場の壁・天井落下 客室窓ガラス破損
	人的被害なし 貯湯槽倒壊により館内浸水・ボイラー倒壊	人的被害なし 貯湯槽倒壊により館内浸水・ボイラー倒壊
	人的被害なし 客室内の備品の破損(補修完了) ライフラインは通信網 以外○ 旅館組合として被災者の受入れ準備(入浴も受入れ)	人的被害なし 客室内の備品の破損(補修完了) ライフラインは通信網 以外○ 旅館組合として被災者の受入れ準備(入浴も受入れ)
	人的被害なし ガラス・給水管破損、水道○・電気○・ガス× 土日月は閉館するがその後は未定 日帰り客や前日宿泊した客が帰れ ず600名が館内及びバス内に宿泊した	人的・物的被害なし ガラス・給水管破損、水道○・電気○・ガス× 土日月は閉館するがその後は未定
従業員1名が秋保へ研修へ行っており連絡がとれず→その後無事が確認 された 壁・ボイラー破損 かけ流し温泉のため風呂は使用できるため近隣住民 から要請があれば開放予定	従業員1名が秋保へ研修へ行っており連絡がとれず→その後無事が確認 された 壁・ボイラー破損 かけ流し温泉のため風呂は使用できるため近隣住民 から要請があれば開放予定	
岩手県	3月14日11時30分現在通信手段の遮断によって 主な被害状況が確認出来なかった地域	建物は4階まで浸水 現在避難所へ退避
		施設の損傷なし 施設の一部を避難所として開放
		浸水
		津波3階まで到達
		3階まで浸水
		3階まで浸水
		人的・物的被害なし ライフライン全て×
		人的・物的被害なし ライフライン全て×
		被害なし
		人的被害なし 津波の第1波は影響なかったが第2波が15m程の高さ より2階まで浸水 社員7名と連絡がとれない状況
宮城県	3月14日11時30分現在通信手段の遮断によって 主な被害状況が確認出来なかった地域	多少の浸水があったものの施設は無事
		建物1階部分浸水・水道×
		人的被害なし 壁面の破損が大きい 水道× 一時避難民530人受入れ たが3/16に避難所へ移動
		人的被害なし ガラスが割れるなど建物は損傷
		人的被害なし 壁崩落・室内備品破損
		人的被害なし ガラス・室内備品破損
		人的被害なし 建物一部破損
		建物1階部分浸水 周辺に車両散乱 入り口にバリケード
		建物1階部分浸水
		人的被害なし 建物一部損傷 源泉損壊
福島県	3月14日11時30分現在通信手段の遮断によって 主な被害状況が確認出来なかった地域	人的被害なし 建物一部損傷 源泉損壊
		人的被害なし 建物一部損傷 源泉損壊 ガス×・水×
		人的・物的被害なし 源泉水位10m低下 ガス×・水×
		人的被害なし 断層のズレにより源泉が崩壊 (4/7地震)一部破損あり
人的・物的被害なし		

資料: 東北運輸局の聞きとり調査等による(聞きとり等の方法によって知り得た施設のみ。また、震災当時の現場での混乱等により事実と相違する場合もある。)

(2) 震災後における政府登録ホテル・旅館の営業状況(平成 23 年 3 月 31 日)

	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	合 計
政府登録ホテル・旅館数	28	40	29	47	66	75	285
うち営業施設数	19	19	21	20	60	42	181
うち休業施設数	9	21	8	27	6	33	104
営業施設数割合	67.9%	47.5%	72.4%	42.6%	90.9%	56.0%	63.5%

資料：東北運輸局による調査

注：「一部条件付で営業」「日帰り入浴のみ営業」等、何らかの形で営業している場合は「営業施設数」に含んでいる。

(3) ホテル・旅館のキャンセル状況

		H23.3	H23.4	3～4月計
全 国 (東北、関東を除く)	予 約 数	2,975	2,170	5,145
	キャンセル数	985	842	1,827
	キャンセル率	33.1%	38.8%	35.5%
東 北	予 約 数	1,247	1,248	2,495
	キャンセル数	693	818	1,511
	キャンセル率	55.6%	65.5%	60.6%
関 東 (山梨県を含む)	予 約 数	2,801	1,847	4,648
	キャンセル数	1,324	882	2,206
	キャンセル率	47.3%	47.8%	47.5%

資料：観光庁のサンプル調査

(4) 県境を越えた旅館・ホテルでの被災者の受け入れについて

都道府県別の30日間受け入れ可能な人数（平成23年4月28日10:00現在）

※全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会（全旅連）取りまとめ。

※同組合員以外の旅館・ホテルを含む。

※百人未満について四捨五入した概数。

○北海道：	300人	○奈良県：	600人
○青森県：	4,500人	○和歌山県：	1,900人
○秋田県：	11,000人	○島根県：	200人
○山形県：	11,700人	○岡山県：	900人
○茨城県：	3,100人	○広島県：	100人
○栃木県：	9,300人	○山口県：	200人
○群馬県：	5,300人	○徳島県：	1,200人
○埼玉県：	1,900人	○香川県：	1,100人
○千葉県：	13,800人	○愛媛県：	400人
○東京都：	2,100人	○高知県：	300人
○神奈川県：	2,800人	○福岡県：	400人
○新潟県：	10,800人	○佐賀県：	1,500人
○富山県：	2,200人	○長崎県：	1,000人
○石川県：	200人	○熊本県：	2,100人
○福井県：	200人	○大分県：	1,200人
○山梨県：	10,800人	○宮崎県：	2,000人
○長野県：	17,800人	○鹿児島県：	1,000人
○岐阜県：	1,300人	○沖縄県：	4,900人
○静岡県：	11,900人		
○愛知県：	1,800人		
○三重県：	1,100人		
○滋賀県：	300人		
○大阪府：	200人		
○兵庫県：	600人		

本件についてのお問い合わせ
 観光庁観光産業課
 渡邊、新井
 代表 03-5253-8111 内線 27-323・325
 直通 03-5253-8329

合計人数： 42都道府県、146,000人

※平成23年4月28日10:00現在をもって本表の更新を終了させていただきます。なお、これにより被災者の方々の受け入れを終了するものではありません。

(5)被災三県に係る宿泊施設での被災者受け入れ状況

岩手県					平成23年4月30日現在
区分	被災地側	人数	うち宿泊施設分		受入地側
県内二次避難	釜石市	533	533	→	盛岡市、花巻市、雫石町、八幡平市
	大槌町	332	332	→	盛岡市、花巻市、雫石町、八幡平市
	山田町	327	327	→	盛岡市、雫石町
	宮古市	122	122	→	盛岡市、八幡平市
	大船渡市	174	174	→	奥州市、北上市、盛岡市
	陸前高田市	349	349	→	一関市、花巻市、奥州市、西和賀町ほか
	野田村	4	4	→	葛巻町
小計		1,841	1,841		
県外二次避難	把握できず				
合計		1,841	1,841		

宮城県					平成23年4月30日現在
区分	被災地側	人数	うち宿泊施設分		受入地側
県内二次避難	東松島市	452	74	→	大崎市、松島町、美里町
	南三陸町	969	753	→	栗原市、大崎市
	山元町	128	73	→	柴田町、角田市
	名取市	9	9	→	蔵王町
	気仙沼市	4	4	→	大崎市
	亶理町	15	15	→	蔵王町
	女川町	37	37	→	大崎市
	石巻市	143	143	→	川崎町、蔵王町
小計		1,757	1,108		
県外二次避難	石巻市	8	8	→	秋田市
	気仙沼市	76	0	→	一関市
	南三陸町	24	24	→	上山市、にかほ町
小計		108	32		
合計		1,865	1,140		

福島県					平成23年4月30日現在
区分	被災地側	人数	うち宿泊施設分		受入地側
県内二次避難	富岡町	841	841	→	郡山市、矢吹町、三春町ほか
	川内村	466	466	→	郡山市、矢吹町、三春町ほか
	大熊町	3,822	3,822	→	会津若松市、喜多方市、北塩原村
	檜葉町	1,223	1,223	→	会津若松市、下郷町、矢祭町ほか
	双葉町	571	571	→	猪苗代町、西郷村
	葛尾村	347	347	→	会津坂下、柳津町、金山町ほか
	浪江町	4,690	4,690	→	二本松市、福島市、猪苗代町ほか
	南相馬市	2,915	2,915	→	福島市、南会津町、檜枝岐村ほか
	広野町	983	983	→	いわき市、石川町、棚倉町ほか
	相馬市	5	5	→	福島市
	白河市	4	4	→	西郷村
	須賀川市	1	1	→	矢吹町
	田村市	55	55	→	三春町
	飯舘村	7	7	→	福島市
小計		15,930	15,930		
県外二次避難	南相馬市、檜葉町、広野町、富岡町、大熊町、双葉町、川内村ほか	3,281	3,281	→	茨城県、静岡県、東京都、山形県、千葉県、栃木県、新潟県
小計		3,281	3,281		
合計		19,211	19,211		

資料：各県資料等をもとに東北運輸局作成

(6) 東北地方主要宿泊施設における動向調査

(平成 23 年 5 月 19 日～5 月 25 日)

各県別施設	客室定員	宿泊客数	H23			客室稼働率	H22		宿泊客数 前年比
			内訳				宿泊客数	客室稼働率	
			被災者	震災復興関係	観光・ ビジネス				
青森県ホテル	188	405	0	0	405	49.0%	511	61.0%	79.3%
青森県 旅館	341	78	0	0	78	12.3%	868	79.1%	9.0%
岩手県 旅館	655	899	0	168	731	36.0%	998	39.0%	90%
秋田県ホテル	177	578	0	0	578	61.2%	867	84.0%	67%
秋田県 旅館	735	827	827	0	0	-	973	-	85.0%
宮城県ホテル	464	2520	0%	70%	30%	95.4%	2352	92.4%	107%
山形県 旅館	769	600	0	0	600	15.0%	700	15.0%	86%
福島県ホテル	96	464	8	0	456	91.5%	233	54.6%	199%
福島県 旅館	582	4256	1610	2510	136	94.0%	1240	57.9%	343%

資料：東北運輸局による調査

Ⅲ 旅行業者の状況

(1) 東北地方主要旅行業者(3社)の取扱額推移

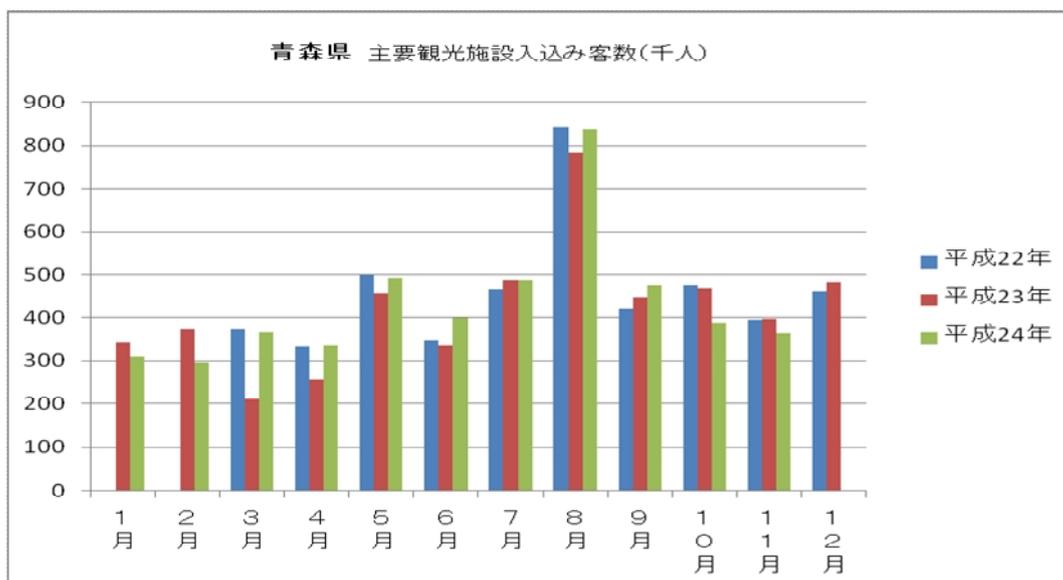
(単位：千円)

区 分	平成23年3月	平成23年4月	平成23年5月
国内旅行	1,424,719	1,422,404	3,319,165
(対前年比)	-48.0%	-38.8%	-91.2%
海外旅行	423,120	249,733	342,771
(対前年比)	-53.3%	-42.2%	-49.8%
合 計	1,847,839	1,672,137	3,661,936
(対前年比)	-49.1%	-39.3%	-84.6%

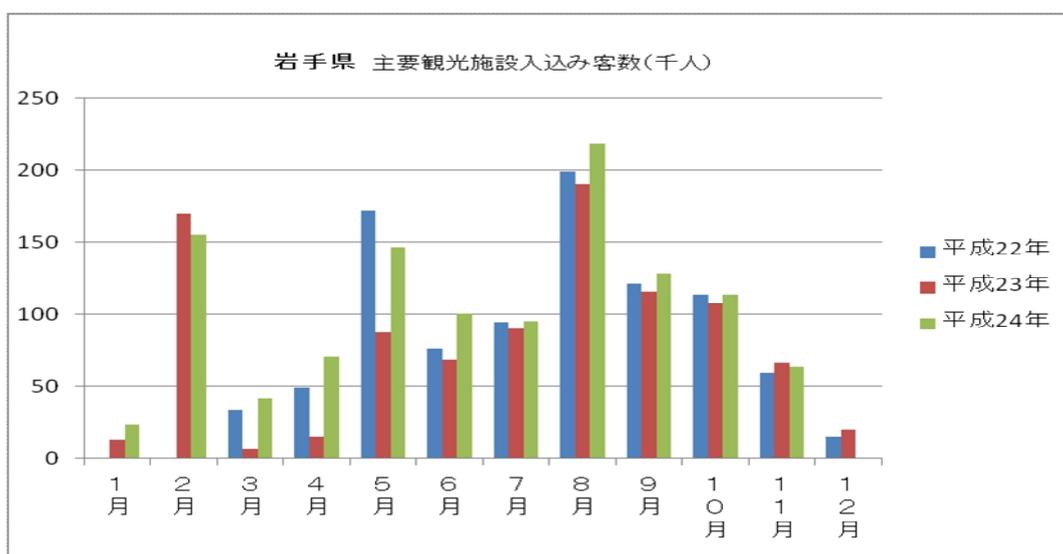
資料：東北地方所在の大手旅行業者3社による実績報告

IV 観光施設の状況

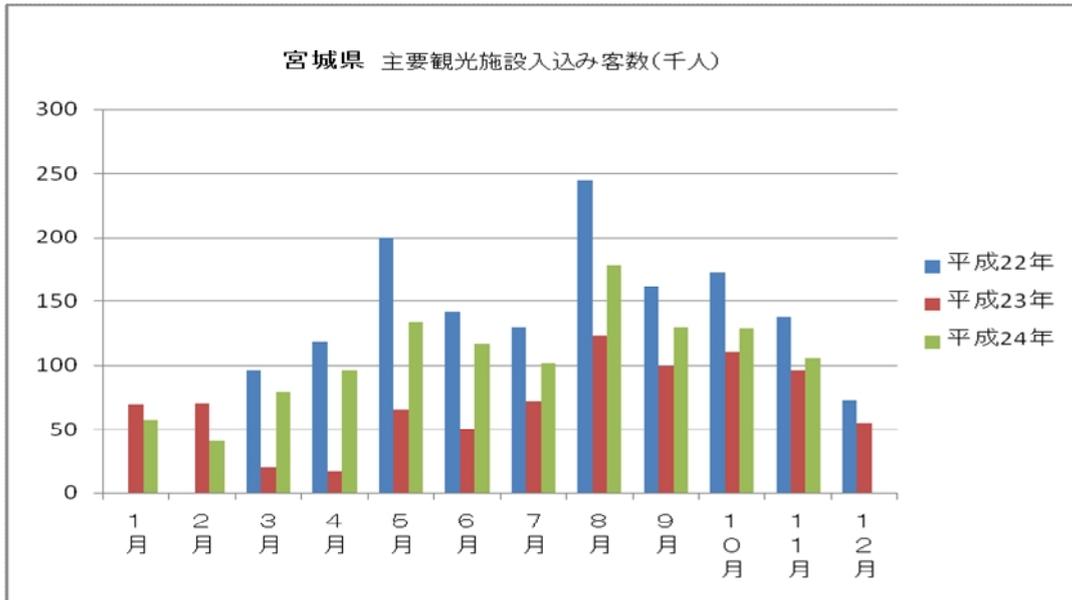
(1) 東北地方主要観光施設入込み客数



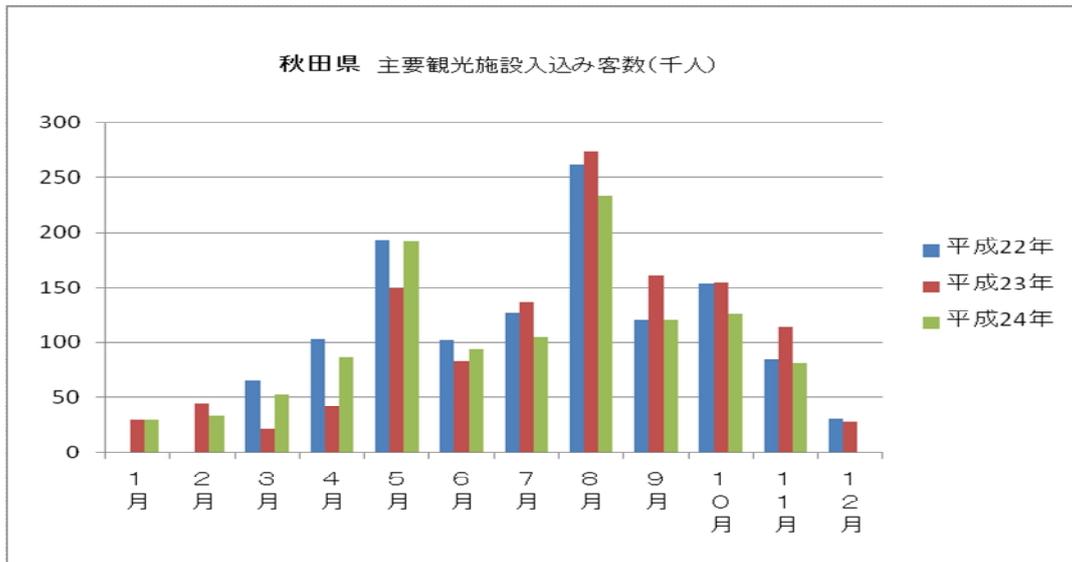
青森県5施設	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年	-	-	374,709	335,916	498,441	348,379	467,247	842,206	420,630	475,753	396,174	462,589
平成23年	345,213	373,992	211,805	255,946	458,292	337,836	488,103	783,822	448,156	468,793	398,150	483,005
平成24年	309,617	295,951	368,167	336,465	492,112	398,963	486,202	837,439	475,817	389,420	364,599	-



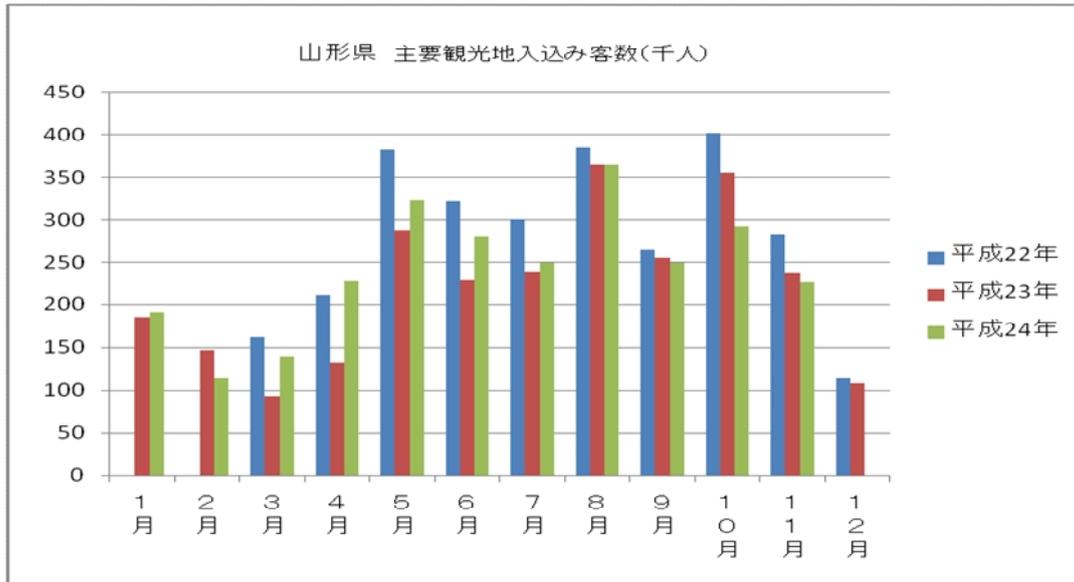
岩手県6施設	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年	-	-	33,531	49,231	171,472	76,370	94,258	199,388	120,703	113,454	60,060	14,677
平成23年	13,023	169,825	33,531	15,260	87,406	68,212	90,326	189,778	115,589	107,991	66,639	19,932
平成24年	22,571	155,397	41,946	69,963	146,362	100,718	95,151	218,364	128,391	113,530	63,522	-



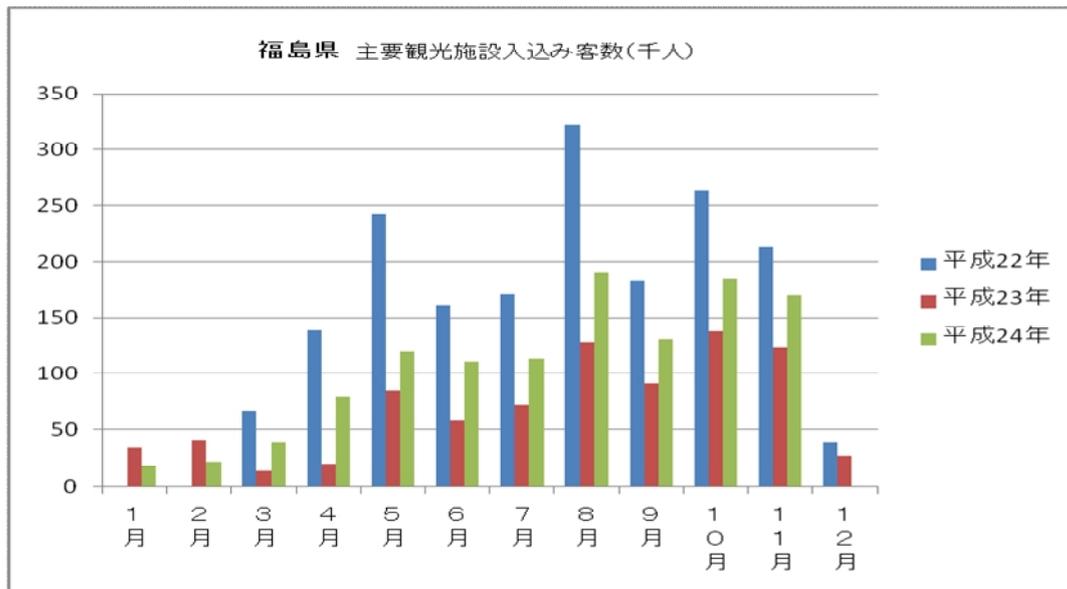
宮城県5施設	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年	-	-	95,994	118,398	200,103	141,705	130,234	244,731	161,910	172,480	138,083	72,359
平成23年	69,633	70,025	95,994	17,755	65,587	50,556	71,973	123,084	99,106	110,633	96,508	55,201
平成24年	57,770	41,227	79,126	96,652	133,921	117,063	101,600	178,381	130,093	129,313	105,698	-



秋田県5施設	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年	-	-	65,387	102,765	193,404	101,638	125,098	261,427	119,752	153,755	84,332	30,792
平成23年	29,601	45,103	65,387	42,391	150,036	82,911	137,081	273,006	161,031	155,092	114,012	28,019
平成24年	29,791	33,061	52,546	87,022	191,417	94,570	105,036	232,744	119,860	125,104	81,415	-



山形県5施設	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年	-	-	161,404	210,469	382,528	320,860	300,005	383,985	264,728	401,585	281,001	114,236
平成23年	184,861	146,565	93,184	132,851	287,563	228,067	239,148	364,643	255,566	354,724	237,711	108,111
平成24年	190,610	114,050	140,238	227,175	322,169	279,210	249,049	364,948	249,234	291,883	225,620	-



福島県5施設	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年	-	-	66,825	138,833	242,892	160,566	170,445	322,262	183,163	263,549	213,134	38,747
平成23年	34,937	40,959	14,139	20,226	84,400	57,530	72,591	127,343	91,211	137,518	123,636	27,423
平成24年	18,178	22,095	38,557	79,220	119,797	110,542	113,468	190,915	130,431	184,747	169,955	-

資料：東北運輸局による東北各県主要観光施設31箇所への調査

V 復興に向けた取り組み

(1) 復興商店街等の状況

平成25年1月24日現在

県	名称	住所
岩手県	おおふなと夢商店街	大船渡市大船渡町字茶屋前57-5
	大船渡屋台村	大船渡市大船渡町字野々田19-1
	復興おおふなとプレハブ横町	大船渡市大船渡町野々田21-2
	編！はまなす商店街	釜石市鶴住居町第3-7-2
	青葉公園商店街	釜石市大只越街1丁目49-1、3
	釜石はまゆり飲食店街	釜石市鈴子町14
	復興天神15商店街	釜石市天神町5-17
	平田パーク商店街	釜石市平田5-84-5
	たろちゃんハウス	宮古市田老向新田149-4
	栃ヶ沢ベース	陸前高田市高田町字栃ヶ沢26-1
	陸前高田元気会	陸前高田市米崎町字松峰92-1
	陸前高田未来商店街	陸前高田市竹駒街字滝の里3-1
	つどいの丘商店街	陸前高田市高田町字大隅93-1
	みらいにむけて商店街	岩泉町小本字中の212-1
	福幸きりり商店街	大槌町大槌第23地割9
	高砂通り商店街	山田町中央街25
	長崎仮設店舗	山田町長崎1丁目9-2
	八幡通り商店街	山田町八幡町332-1、2、また328-9
	菅窪仮設商店街	田野畑村菅窪205-4
	田野畑村仮設店舗	田野畑村等羅賀192-114
普代村仮設店舗	普代村第6割字中山29-2	
宮城県	石巻立町復興ふれあい商店街	石巻市立町2丁目6-23
	牡鹿鮎川浜仮設商店街・おしかのれん街	石巻市鮎川浜湊川1-12
	おがつ店こ屋街	石巻市雄勝町雄勝伊勢畑84-1
	石巻まちなか復興マルシェ	石巻市中央2丁目11-13
	気仙沼復興飲食組合 福幸小町	気仙沼市田中前4-2-1、田谷11-1、南が丘1-2-2
	気仙沼鹿折復興マルシェ	気仙沼市中みなと街107-1
	気仙沼復興商店街 南町紫市場	気仙沼市浜見山1-1
	復興屋台村気仙沼横町	気仙沼市南町4丁目2-19
	しおがま・みなと復興市場	塩釜市海岸通226-5
	復興仮設店舗緑が丘	東松島市大塩字緑が丘4丁目4-1
	復興仮設店舗堺堀	東松島市大曲字堺堀13-5
	復興仮設店舗ひびき	東松島市川下字内響132-32
	閑上さいかい市場	名取市美田園7丁目1-1
	きぼうのかね商店街	女川町浦宿浜字十二神60-3-7
	清水百貨店	女川町女川浜日蔵48-11
	おながわコンテナ村商店街	女川町鷲神浜字堀切6
	七の市商店街	七ヶ浜町吉田浜字野山5-9
	南三陸町歌津伊里前福幸商店街	南三陸町歌津字伊里前96-1
	南三陸さんさん商店街	南三陸町志津川字御前下59-1
	鳥の海ふれあい市場	亶理町荒浜字筑港通り28-2
ふるさと復興商店街	亶理町東郷9仮設施設2-1	
福島県	久ノ浜・浜風商店街	いわき市久ノ浜街久ノ浜字糠塚15
	西地区仮設店舗	相馬市大野台1丁目13-1
	かしま福幸商店街	南相馬市鹿島区西町88

資料：各種HPをもとに作成

(2)「語り部タクシー」の状況

実施している (実施しようとする)区間	開始した (開始しようとする)時期	概要
岩手県山田町内	平成25年1月	「被災ガイド」「語り部タクシー」「語り部飲食店」の各コースあり、タクシーで案内しながらのコースを町内のタクシー会社2社が担当。 「語り部」乗務員は代表者自身が務め、自らの体験談や当時との変化等を率直に伝える。
仙台市中心部から仙台空港(名取市、岩沼市周辺)	平成24年10月	NPO法人「宮城復興支援センター」の語り部養成講座に合格した認定ドライバーが、震災の爪痕が残る場所へ案内し、自らの体験も含め当時の被害や状況を説明する。
松島町を拠点とし、気仙沼市、南三陸町、石巻市、東松島市、松島町、塩釜市、七ヶ浜町、多賀城市、仙台市、名取市の各地	平成24年8月	松島への観光客の要望に応えるかたちでスタート。「被災地応援コース」として、「東松島コース」、「石巻コース」など数コースあり。 乗務員は、自らの体験も含め、震災前、震災後の写真集などを用いて説明する。高齢者、歩行困難者には車椅子を提供。
石巻駅を出発し、石巻市内、女川、南三陸・登米の各地	平成25年4月 予定	平成25年4月より「駅から観タクン」により実施予定。 ※「駅から観タクン」: 駅前タクシー乗り場のタクシーを利用して周辺の観光地を気軽に巡れるタクシー観光プラン。みどりの窓口等でタクシー券を購入。
気仙沼駅を拠点として気仙沼市内、南三陸町、陸前高田市の各地	平成24年9月	「被災地視察時間貸切コース」として、「気仙沼市内コース」、「気仙沼・岩井崎コース」など数コースあり、要望によりコースメニューの変更も可。

資料：東北運輸局による調査（平成25年2月現在）

タクシー利用のご案内
(被災地視察 時間貸切コース)

〈 気仙沼市内コース 〉
行 程: 気仙沼駅～廣折～南町～魚市場～朝日町～内の船～気仙沼駅
貸切時間: 1時間
料 金: 小型 5,480円 ジャンボ(お客様9名乗り) 7,600円

〈 気仙沼・磐前コース 〉
行 程: 気仙沼駅～廣折～南町～魚市場～松島片浜～塩釜港～気仙沼駅
貸切時間: 2時間
料 金: 小型 10,960円 ジャンボ(お客様9名乗り) 15,200円

〈 廣折・鹿嶋コース 〉
行 程: 気仙沼駅～鹿嶋半島～廣折～南町～魚市場～気仙沼駅
貸切時間: 3時間
料 金: 小型 16,440円 ジャンボ(お客様9名乗り) 22,960円

〈 南三陸町コース 〉
行 程: 気仙沼駅～廣折～南町～魚市場～松島片浜～塩釜港～朝日町～志津川町～気仙沼駅
貸切時間: 4時間
料 金: 小型 21,920円 ジャンボ(お客様9名乗り) 29,960円

〈 気仙沼駅・陸前高田町コース 〉
行 程: 気仙沼駅～幸町～魚市場～南町～廣折～陸前高田町～気仙沼駅
貸切時間: 3時間30分
料 金: 小型 19,180円 ジャンボ(お客様9名乗り) 26,600円

※この他、お客様のご要望によりコースメニューの変更が出来ます。ご気軽にご相談をお待ちしております。

私達が震災から現在の山田町をご案内致します

料金・コース

- 被災ガイド 3時間まで 3,000円 (8名乗用車は43,000円)
コース: 従来一環状山一魚市場(その他要望にも応じますので、ご相談ください。)
- 語り部タクシー 1時間 4,700円
タクシーに乗りながら町内の被災地をご案内、語ります。
- 語り部飲食店 30分 1,000円 (2名乗用車)
お食事しながら、震災当時について、店員が語ります。
被災飲食店はお問い合わせください。

注意事項

緊急避難が優先した場合は、ドライバー途中で終了させて頂くことがあります。
津波避難警報が鳴った場合は、ドライバーが現地に避難して頂きます。
町内を巡る観光コースは、希望に応じて追加料金がかかります。ご了承ください。

乗入期間 1週間 希望の日に調整させていただきます。

乗入乗車人数 1名から要望に応じて相談

集合場所 山田町内 ※山田町での集合をお願いします。希望にはお迎えしますのでご相談ください。

申込・問合せ 新生やまだ商店街協同組合 事務局
Tel: 0193-77-3732
Mail: info@shinseyamada.com
〒028-1341 岩手県下巻伊勢山田町八幡町12-9

※平日はご乗車が可能です。土日・祝日は、運転手や乗務員確保のため、お断りさせていただきます。
※乗務員は必ずしも被災地を訪問していません。

※募集パンフレットの一例

【参考資料3】東北地方における観光の現状

I わが国における観光消費額の現状

表1-1 平成22年 国内の旅行消費額23.8兆円の市場別内訳

日本人 国内宿泊旅行	日本人 国内日帰り旅行	日本人 海外旅行	訪日外国人旅行
16.1兆円 (67.5%)	5.1兆円 (21.4%)	1.3兆円 (5.4%)	1.3兆円 (5.7%)

資料：観光庁「平成24年版観光白書」、「旅行・観光消費動向調査」
日本銀行「国際収支状況（確報）」

表1-2 旅行消費が我が国にもたらす経済効果

直接効果			波及効果			
付加価値 効果	雇用効果	税收効果	生産波及 効果	付加価値 効果	雇用効果	税收効果
11.5 兆円	229 万人	1.8 兆円	49.4 兆円	25.2 兆円	424 万人	4.0 兆円
GDPの 2.4%	全雇用の 3.6%	全税收の 2.3%	日本経済の貢献度（注1）			
			5.5% （注2）	5.2% （注3）	6.6% （注4）	5.3% （注5）

資料：観光庁「平成24年版観光白書」、観光庁「旅行・観光消費動向調査」

注1：ここで言う貢献度とは全産業に占める比率

注2：国民経済計算における産出額905.1兆円に対応

注3：国民経済計算における名目GDP481.8兆円に対応

注4：国民経済計算における就業者数6,392万人に対応

注5：国税+地方税76.2兆円に対応

表1-3 平成22年 東北各県の旅行消費額

(億 円)

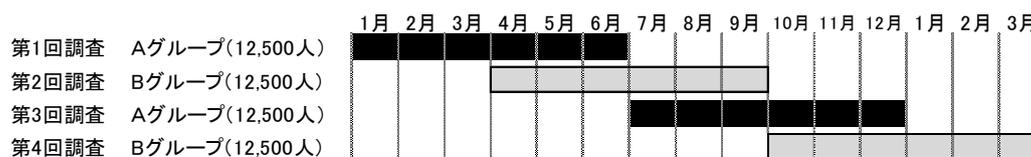
	宿泊旅行 消費額	日帰り旅行 消費額	合 計
青森県	1, 809	313	2, 122
岩手県	1, 887	609	2, 496
宮城県	3, 442	846	4, 288
秋田県	1, 566	434	2, 000
山形県	1, 788	410	2, 197
福島県	3, 317	997	4, 314
新潟県	3, 536	1, 299	4, 835

資料：観光庁「2010年旅行・観光消費動向調査」

※「旅行・観光消費動向調査」は、調査対象を基本台帳をもとに抽出した約2,500人を対象として、観光庁から調査対象者へ調査票を配布し、調査対象者あるいは代理の者が調査票に記入し返送する方法で実施した。

なお、同調査は2003年度から継続的に実施しており、2009年調査から調査対象者を全年齢に拡張するとともに、年度集計から暦年集計に変更し、2010年調査から調査事項、標本サイズ、集計事項を拡充した。

【参考】



II 東北地方の観光資源等の現状

表2-1 評価観光資源

	合計						特 A			A		
			自然系		人文系		自然系	人文系		自然系	人文系	
全国	399	—	216	—	183	—	37	16	21	362	200	162
北海道	45	11%	39	18%	6	3%	2	1	1	43	38	5
東北	58	15%	44	20%	14	8%	7	7	0	51	37	14
関東	63	16%	34	16%	29	16%	6	3	3	57	31	26
北陸信越	45	11%	36	17%	9	5%	3	3	0	42	33	9
中部	28	7%	17	8%	11	6%	3	1	2	25	16	9
近畿	91	23%	10	5%	81	44%	12	0	12	79	10	69
中国	24	6%	11	5%	13	7%	5	2	3	19	9	10
四国	15	4%	9	4%	6	3%	0	0	0	15	9	6
九州	48	12%	37	17%	11	6%	2	2	0	46	35	11
沖縄	18	5%	14	6%	4	2%	1	1	0	17	13	4

資料：観光資源評価台帳（財団法人日本交通公社）

注：複数県に跨るものはそれぞれの県に計上してブロック計を集計しているため、全国計とは一致しない。

特A：わが国を代表する資源で、かつ世界に誇示するもの。

わが国のイメージ構成の基調となりうるもの。

A：特A級に準じ、その誘致力は全国的で、観光重点地域の原動力としての重要な役割をもつもの。

	合計						特A			A		
			自然系		人文系		自然系	人文系		自然系	人文系	
全国	399	—	216	—	183	—	37	16	21	362	200	162
東北	(58)	(15%)	(43)	(20%)	(15)	(8%)	(5)	(5)	(0)	(53)	(38)	(15)
	51	13%	37	17%	14	8%	5	5	0	46	32	14

注1：重複を除いた数。

注2：（ ）内は東北6県及び新潟県

表2-2 特 A 級観光資源

都道府県	観光資源	都道府県	観光資源
北海道	摩周湖、さっぽろ雪まつり	滋賀	延暦寺
青森	奥入瀬、白神山地のブナ原生林、十和田湖	京都	修学院離宮庭園、桂離宮庭園、 祇園祭、京都国立博物館
岩手	北山崎	大阪	国立民族博物館
秋田	白神山地のブナ原生林、十和田湖	兵庫	姫路城
福島	尾瀬ヶ原	奈良	奈良国立博物館、法隆寺、 東大寺、東大寺二月堂修二会（お水取り）
栃木	華厳滝、日光杉並木街道	和歌山	高野山
群馬	尾瀬ヶ原	島根	隠岐諸島、出雲大社
千葉	国立歴史民族博物館	広島	厳島神社、広島平和記念資料館
東京	東京国立博物館	山口	秋芳洞・秋吉台
新潟	尾瀬ヶ原	熊本	阿蘇山と外輪山
富山	黒部峡谷	鹿児島	屋久島、屋久杉の原始林
長野	穂高連峰	沖縄	西表島
静岡	富士山		
三重	皇大神宮（伊勢神宮内宮）、式年遷宮		

資料：観光資源評価台帳（財団法人日本交通公社）

表2-3 東北6県及び新潟県のA級観光資源

県名	観光資源
青森	八甲田山、岩木山、仏ヶ浦、蕪島のウミネコ繁殖地、弘前城のサクラ、三内丸山遺跡、青森ねぶた
岩手	岩手山、八幡平、北上川、浄土ヶ浜、龍泉洞、中尊寺、毛通寺跡、安家洞
宮城	鳴子峡、松島、瑞巖寺、仙台七夕まつり、蔵王山、蔵王の樹氷
秋田	八幡平、角館のシダレザクラ、角館武家屋敷、竿燈、鳥海山、かまくら
山形	鳥海山、月山、蔵王山、飯豊山、弥陀ヶ原、最上川、羽黒山の杉並木、蔵王の樹氷、立石寺（山寺） 出羽三山神社（羽黒山神社）、花笠祭り、吾妻山
福島	磐梯山、燧ヶ岳、吾妻山、雄国沼湿原、五色沼、三条ノ滝、三春滝ザクラ、大内宿、相馬野馬追、尾瀬沼 飯豊山、磐梯高原
新潟	佐渡、阿賀野川、苗場山頂の湿原、弥彦神社、清津峡、谷川岳、妙高山、飯豊山

資料：観光資源評価台帳（財団法人日本交通公社）

表2-4 日本の100選いろいろ

	日本の自然	美しい日本のむら景観
青森県	屏風山湿原 蕨温泉の自然林	弘前市(宮地) 平川市(八幡崎) 八戸市(泥障作)
岩手県	櫃取湿原 五葉山	奥州市(南都田)
宮城県	伊豆沼・内沼 広瀬川	蔵王町(蔵王)
秋田県	白神山地のブナ林 能代海岸の砂防林	にかほ市(伊勢居地) 由利本荘市(南由利原) 東成瀬村(岩井川)
山形県	今神山 寒河江川・朝日川上流のブナ林	長井市(平野) 南陽市(赤湯) 金山町(金山)
福島県	信夫山 新舞子浜のクロマツ林	大玉村(小姓内) 新地町(中島) 南相馬市(南屋形)
新潟県	福島潟 天水越のブナ林	新潟市(夏井) 津南町(結束) 柏崎市(荻ノ島)

	日本の道	日本の渚
青森県	十和田市官庁街通り(十和田市) こみせのある通り(黒石市)	椿山海岸(平内町) 岡崎海岸(深浦町) 大須賀海岸(八戸市)
岩手県	芭蕉行脚の道(一関市) 寺町通り(盛岡市)	浄土ヶ浜(宮古市) 碁石海岸(大船渡市) 高田松原(陸前高田市)
宮城県	七ヶ宿街道(白石市) 定禅寺ヶキ通り(仙台市)	十八鳴浜(気仙沼市) 奥松島(東松島市)
秋田県	武家屋敷通り(仙北市) 秋田広小路(秋田市)	鵜ノ崎海岸(男鹿市) 象潟海岸(にかほ市)
山形県	ひな市のある通り(河北町) 月山花笠ライン	荒崎(酒田市) 由良海岸(鶴岡市)
福島県	二本松市旧奥州街道 磐梯吾妻スカイライン	大洲海岸(相馬市) 薄磯海岸(いわき市)
新潟県	天剣親不知線(糸魚川市) 国道148号(糸魚川市)	尖閣湾(佐渡市) 鯨波・青海川海岸(柏崎市)

	森林浴の森
青森県	浅虫生活環境保全林(青森市) 十二湖自然休養林(深浦町)
岩手県	安比高原ブナ林(八幡平市) 耗山国有十二神自然観察教育林(宮古市) 高田松原(陸前高田市)
宮城県	仙台自然休養林(仙台市) 宮城県県民の森(仙台市・利府町)
秋田県	八幡平(鹿角市) 能代海岸の松原(能代市)
山形県	羽黒山・参道の杉並木(鶴岡市) 高館山自然休養林(鶴岡市)
福島県	背あぶり山・会津東山自然休養林(会津若松市) 阿武隈川源流の原生林(西郷村)
新潟県	五頭新潟県県民の森(阿賀野市・阿賀町) 弥彦神社社叢(弥彦村)

	日本の棚田
岩手県	山吹(一関市)
宮城県	沢尻(丸森町) 西山(栗原市)
山形県	榎平(朝日町) 大蔵(山辺町) 四ヶ村の棚田(大蔵村)
新潟県	上船倉の棚田(上越市) 狐塚の棚田(十日町市) 蓮野の棚田(上越市) 花坂の棚田・梨ノ木田の棚田・大開の棚田(柏崎市) 北五百川の棚田(三条市)

資料：日本の100選データブック、農林景観100選(農林水産省)、日本の自然100選(朝日新聞社)

表2-5 重要伝統的建造物群保存地区

青 森 県	岩 手 県	秋 田 県	福 島 県	新 潟 県
弘前市仲町 (武家町)	金ヶ崎町城内諏訪小路 (武家町)	仙北市角館 (武家町)	下郷町大内宿 (宿場町)	佐渡市宿根木 (港町)
黒石市中町 (商家町)			南会津町前沢 (山村集落)	

資料：数字で見る観光 [2011—2012 年度版] (社団法人日本観光振興協会)

表2-6 温泉地数

北海道	260	8.2%
東北	640	20.2%
青森	150	4.7%
岩手	89	2.8%
宮城	47	1.5%
秋田	122	3.8%
山形	92	2.9%
福島	140	4.4%
関東	387	12.2%
北陸信越	584	18.4%
新潟	154	4.9%
中部	290	9.1%
近畿	253	8.0%
中国	221	7.0%
四国	137	4.3%
九州	393	12.4%
沖縄	5	0.1%
全国計	3,170	100.0%

表2-7 最も行ってみたい温泉地
ベスト50

順位	温 泉 地	都道府県
1	草 津	群 馬 県
2	別府温泉郷	大 分 県
3	箱根温泉郷	神 奈 川 県
9	乳頭温泉郷	秋 田 県
10	八幡平温泉郷	秋 田 県
21	酸ヶ湯	青 森 県
28	鳴子温泉郷	宮 城 県
29	伊 東	静 岡 県
29	蔵 王	山 形 県
32	土湯温泉郷	福 島 県
37	銀 山	山 形 県
41	浅 虫	青 森 県
43	高 湯	福 島 県
45	不老不死	青 森 県
46	作 並	宮 城 県
47	東 山	福 島 県
47	奥入瀬・八甲田	青 森 県
51	霧島温泉郷	鹿 児 島 県
51	三 朝	鳥 取 県
51	姥 湯	山 形 県

表2-8 最も印象の良かった温泉地
ベスト50

順位	温 泉 地	都道府県
1	草 津	群 馬 県
2	箱根温泉郷	神 奈 川 県
3	別府温泉郷	大 分 県
4	下 呂	岐 阜 県
5	登 別	北 海 道
6	乳頭温泉郷	秋 田 県
7	喜怒川・川治	栃 木 県
8	湯 布 院	大 分 県
9	四 万	群 馬 県
10	熱海・伊豆山	静 岡 県
14	八幡平温泉郷	秋 田 県
21	酸ヶ湯	青 森 県
22	奥飛騨温泉郷	岐 阜 県
23	鳴子温泉郷	宮 城 県
33	銀 山	山 形 県
41	鳶	青 森 県
42	下 田	静 岡 県
42	浅 虫	青 森 県
44	東 山	福 島 県
44	秋 保	宮 城 県

資料：数字で見る観光 [2011—2012 年度版] (社団法人日本観光振興協会)

Ⅲ 東北地方における観光客の入込み状況

表3-1 東北各県における観光客延べ入込み数の推移

(単位：万人)

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
青森県	4,795	4,689	4,859	3,421 (1,487)	3,154 (1,111)
岩手県	3,900	3,717	3,752	2,787 (1,229)	2,385 (1,178)
宮城県	5,788	5,679	6,125	6,129 (1,998)	4,316 (1,577)
秋田県	4,515	4,300	4,459	4,389 (-)	2,945 (1,043)
山形県	4,008	3,932	4,184	3,943 (1,452)	3,540 (1,453)
福島県	5,695	5,533	5,621	5,718 (2,254)	3,521 (1,482)
新潟県	6,844	7,088	7,498	6,933 (2,676)	6,667 (2,617)

資料：各県観光統計資料及び観光庁「共通基準による観光入込客統計」により東北運輸局作成

注1：平成22年度より、下段に「共通基準」による実績（実入込客数）を再掲

表3-2 東北各県における延べ宿泊者数の推移

(単位：万人)

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
青森県	315	304	347	354	448
岩手県	428	379	416	426	631
宮城県	732	670	661	724	979
秋田県	319	300	287	313	372
山形県	367	379	400	426	543
福島県	752	767	712	782	1,080
新潟県	630	674	727	734	1,037

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査報告」

注：平成22年4月～6月調査より、従業員数9人以下を含む全宿泊施設に調査対象を拡充した。

表3-3 東北方面への修学旅行実施状況

公立中学校の東北方面への修学旅行実施状況

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
北海道	372	370	386	386	9
東北	2	3	9	0	2
関東	93	96	53	94	11
中部	2	1	0	1	0
近畿	1	1	1	3	1
中国	0	0	0	0	0
四国	0	0	0	0	0
九州	0	0	0	0	0
合計	470	471	449	484	23

公立高等学校の東北方面への修学旅行実施状況

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
北海道	0	0	0	0	0
東北	3	2	2	2	0
関東	14	18	5	9	6
中部	4	4	2	3	0
近畿	28	18	21	24	6
中国	0	0	2	0	1
四国	0	2	2	1	0
九州	11	19	16	17	0
合計	60	63	50	56	13

資料:公益財団法人全国修学旅行研究協会

「公立高等学校修学旅行方面別実施状況」

「公立中学校修学旅行方面別実施状況」

表3-4 東北の主要夏祭りの動向

東北の主要夏祭りへの入込み客数の推移

(万人)

	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
合 計	1,491.0	1,520.6	1,584.2	1,484.9	1,504.6

各夏祭りへの入込み客数の状況（平成 24 年）

祭り	開催地	期 間	入込客数 (万人)	23 年比 (%)	22 年比 (%)
青森ねぶた祭り	青森市	8/2~8/7	305	104.8	95.3
弘前ねぷたまつり	弘前市	8/1~8/7	162	100.6	99.4
五所川原立佞武多	五所川原市	8/4~8/8	133	91.1	90.5
八戸三社大祭	八戸市	7/31~8/4	109.3	91.2	105.3
盛岡さんさ踊り	盛岡市	8/1~8/4	122	89.6	90.2
北上・みちのく芸能まつり	北上市	8/4~8/6	29.4	113.1	87.5
秋田竿燈まつり	秋田市	8/3~8/6	139.3	107.2	103.2
全国花火競技大会	大仙市	8/25	76	108.6	95.0
仙台七夕まつり	仙台市	8/6~8/8	200.2	98.5	84.9
山形花笠まつり	山形市	8/5~8/7	100	109.9	100.0
新庄まつり	新庄市	8/24~8/26	52	120.9	113.0
相馬野馬追い（注1）	相馬市ほか	7/28~7/30	15.9	429.7	74.3
郡山うねめまつり	郡山市	8/2~8/4	35.5	86.6	100.0
福島わらじまつり（注2）	福島市	8/3~8/4	25	108.7	89.3
合 計			1504.6	101.3	95.0

出典：日本銀行青森支店、秋田支店、仙台支店、福島支店（平成 24 年 9 月 12 日）

注1：本年から曜日固定に開催日を変更

注2：前々年は8/6~8/7の2日間、前年は震災の影響で1日間のみの開催

IV 国際観光の状況

表4-1 州別、国・地域別訪日外国人旅行者数の推移

州名	国・地域名	21年		22年		23年		
		人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	対前年比
北	アメリカ州	874,617	12.9%	905,896	17.1%	685,046	11.0%	75.6%
	アメリカ	699,919	10.3%	727,234	14.0%	565,887	④ 9.1%	77.8%
	カナダ	152,756	2.2%	153,303	2.5%	101,299	1.6%	66.1%
	メキシコ	16,454	0.2%	19,248	0.5%	13,080	0.2%	68.0%
	その他	5,488	0.1%	6,111	0.1%	4,780	0.1%	78.2%
南	アメリカ州	33,481	0.5%	39,481	0.6%	31,762	0.5%	80.4%
	ブラジル	16,899	0.2%	21,393	0.3%	18,462	0.3%	86.3%
	その他	16,582	0.2%	18,088	0.4%	13,300	0.2%	73.5%
ヨーロッパ州		800,085	11.8%	853,166	12.8%	569,284	9.2%	66.7%
	イギリス	181,460	2.7%	184,045	4.2%	140,099	2.3%	76.1%
	フランス	141,251	2.1%	151,011	1.8%	95,438	1.5%	63.2%
	ドイツ	110,692	1.6%	124,360	1.7%	80,772	1.3%	65.0%
	イタリア	59,607	0.9%	62,394	0.7%	34,035	0.5%	54.5%
	ロシア	46,952	0.7%	51,457	0.7%	33,797	0.5%	65.7%
	スペイン	42,484	0.6%	44,076	0.5%	20,814	0.3%	47.2%
	オランダ	31,186	0.5%	32,837	0.4%	23,450	0.4%	71.4%
	スウェーデン	26,384	0.4%	29,188	0.3%	21,086	0.3%	72.2%
	スイス	23,091	0.3%	26,005	0.3%	16,410	0.3%	63.1%
	ベルギー	13,899	0.2%	15,981	0.2%	10,708	0.2%	67.0%
	デンマーク	13,116	0.2%	14,606	0.3%	10,821	0.2%	74.1%
	アイルランド	10,450	0.2%	10,738	0.2%	8,294	0.1%	77.2%
	その他	99,513	1.5%	106,468	1.5%	73,560	1.2%	69.1%
アフリカ州		20,621	0.3%	22,665	0.4%	19,361	0.3%	85.4%
アジア州		4,814,001	70.9%	6,528,432	65.2%	4,723,651	76.0%	72.4%
	韓国	1,586,772	23.4%	2,439,816	24.3%	1,658,067	① 26.7%	68.0%
	中国	1,006,085	14.8%	1,412,875	16.8%	1,043,245	② 16.8%	73.8%
	台湾	1,024,292	15.1%	1,268,278	8.6%	993,972	③ 16.0%	78.4%
	香港	449,568	6.6%	508,691	5.5%	364,864	⑤ 5.9%	71.7%
	タイ	177,541	2.6%	214,881	2.5%	144,969	2.3%	67.5%
	シンガポール	145,224	2.1%	180,960	1.5%	111,354	1.8%	61.5%
	マレーシア	89,509	1.3%	114,519	1.4%	81,516	1.3%	71.2%
	インドネシア	63,617	0.9%	80,632	1.2%	61,911	1.0%	76.8%
	フィリピン	71,485	1.1%	77,377	1.1%	63,099	1.0%	81.5%
	インド	58,918	0.9%	66,819	0.9%	59,354	1.0%	88.8%
その他	140,990	2.1%	163,584	1.5%	141,300	2.3%	86.4%	
オセアニア州		246,213	3.6%	260,872	3.8%	189,150	3.0%	72.5%
	オーストラリア	211,659	3.1%	225,751	3.1%	162,578	2.6%	72.0%
	ニュージーランド	31,567	0.5%	32,061	0.6%	23,996	0.4%	74.8%
	その他	2,987	0.0%	3,060	0.1%	2,576	0.0%	84.2%
無国籍		640	0.0%	663	0.0%	493	0.0%	74.4%
合計		6,789,658	100.0%	8,611,175	100.0%	6,218,747	100.0%	72.2%

資料：平成24年版観光白書(国土交通省)

注：法務省資料に基づく国土交通省総合政策局観光部集計による。

表4-2 訪日外国人 地方別訪問率の推移

	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
北海道	6.4	7.6	8.1	8.0	8.8
東北	3.6	4.0	3.5	3.6	3.3
関東	65.4	62.8	63.5	64.5	64.4
北陸	3.4	3.1	3.0	2.9	3.3
中部	21.3	19.9	20.9	20.8	22.7
関西	33.4	34.2	33.4	33.1	34.5
中国	5.1	5.2	5.2	5.6	5.1
四国	1.1	0.9	1.1	1.1	1.1
九州	11.2	12.4	12.1	10.1	10.9
沖縄	2.4	2.2	2.3	2.5	2.7

資料：J N T O 訪日外客訪問地調査 2010（日本政府観光局）

表4-3 東北各県における外国人延べ宿泊者数の推移

（単位：人）

	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
青森県	58,072	71,820	59,170	59,100	33,730
岩手県	97,400	88,520	64,640	83,440	33,330
宮城県	152,190	150,920	115,100	159,490	53,520
秋田県	41,750	41,990	45,060	63,570	27,210
山形県	35,030	41,060	41,740	52,630	34,710
福島県	128,490	122,620	56,870	87,170	27,540
新潟県	99,500	110,060	87,430	99,330	91,250

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査報告」

注：平成 22 年 1 月～3 月調査までの調査対象は従業員数 10 人以上のホテル、旅館及び簡易宿所などの宿泊施設。平成 22 年 4 月～6 月調査より、従業員数 9 人以下を含むホテル、旅館、簡易宿所、会社・団体の宿泊所などの全宿泊施設に調査対象を拡充した。

表4-4 平成23年度都道府県別旅券発行件数

都道府県	区分	旅券発行件数			人口(H22.10.1 現在)(千人)	人口比(1,000人あたり)	
		件数	順位	前年比(%)		件数	順位
東京		633,272	1	94.3	13,159	48.1	1
神奈川		382,067	2	93.3	9,048	42.2	2
千葉		226,683	6	91.8	6,216	36.5	3
愛知		266,364	4	95.2	7,411	35.9	4
奈良		49,616	18	93.1	1,401	35.4	5
兵庫		195,875	7	94.4	5,588	35.1	6
大阪		309,902	3	94.9	8,865	35.0	7
京都		92,081	11	94.6	2,636	34.9	8
滋賀		48,512	20	96.4	1,411	34.4	9
埼玉		242,331	5	93.7	7,195	33.7	10
福岡		165,230	8	99.1	5,072	32.6	11
静岡		115,920	9	93.6	3,765	30.8	12
岐阜		60,984	14	94.2	2,081	29.3	13
三重		53,894	15	92.4	1,855	29.1	14
山梨		23,859	35	91.5	863	27.6	15
茨城		80,621	12	89.9	2,970	27.1	16
広島		74,771	13	97.7	2,861	26.1	17
石川		30,491	28	99.7	1,170	26.1	17
栃木		51,412	17	95.4	2,008	25.6	19
富山		27,450	32	102.7	1,093	25.1	20
福井		20,171	38	94.5	806	25.0	21
和歌山		24,677	34	93.4	1,002	24.6	22
沖縄		34,212	25	107.7	1,393	24.6	22
群馬		48,991	19	95.1	2,008	24.4	24
長野		51,635	16	95.1	2,152	24.0	25
岡山		46,434	22	98.4	1,945	23.9	26
佐賀		20,239	37	100.9	850	23.8	27
大分		27,292	33	104.5	1,197	22.8	28
熊本		41,252	24	99.6	1,817	22.7	29
香川		22,225	36	93.6	996	22.3	30
山口		31,427	27	94.9	1,451	21.7	31
徳島		16,664	42	89.0	785	21.2	32
鳥取		12,241	46	93.6	589	20.8	33
新潟		48,363	21	95.4	2,374	20.4	34
長崎		28,719	30	97.2	1,427	20.1	35
愛媛		27,965	31	98.3	1,431	19.5	36
北海道		107,425	10	97.5	5,506	19.5	36
宮城		44,413	23	90.5	2,348	18.9	38
宮崎		19,955	39	103.5	1,135	17.6	39
鹿児島		29,338	29	101.7	1,706	17.2	40
山形		19,643	40	92.8	1,169	16.8	41
福島		33,955	26	84.1	2,029	16.7	42
島根		11,984	47	97.0	717	16.7	42
高知		12,532	45	96.1	764	16.4	44
秋田		15,101	44	94.8	1,086	13.9	45
岩手		16,759	41	86.1	1,330	12.6	46
青森		16,435	43	86.8	1,373	12.0	47
(外務省)		0	—	0.0	0	0.0	—
計		3,961,382	—	94.7	128,057	30.9	—

(注) 旅券発行件数は、「外務省旅券統計」(速報値)による。人口は総務省統計局「平成22年10月1日現在推計人口」による。

表4-5 東京から列車利用による最速乗車時間

(単位：分)

都市名	青森	盛岡	仙台	秋田	山形	福島	新潟
乗車時間	197	140	96	230	149	85	97
距離(km)	717.6	535.3	351.8	662.6	359.9	272.8	333.9
備考	乗換1回	乗換0回	乗換0回	乗換0回	乗換0回	乗換0回	乗換0回

都市名	弘前	宮古	石巻	男鹿	酒田	会津若松	直江津
乗車時間	219	259	181	285	226	142	115
距離(km)	742.2	637.4	401.5	702.2	502.1	291.3	283.4
備考	乗換1回	乗換1回	乗換3回	乗換2回	乗換1回	乗換1回	乗換1回

資料：東北運輸局作成

注1：石巻は仙石線不通区間の影響による代行バス輸送があるため乗換3回

注2：男鹿は1日で移動できる最速時間を記載

表4-6 東北の空港からの路線

平成24年9月現在

	国内線	国際線
仙台空港	札幌(75) 成田(70) 小松(70) 中部(75) 伊丹(85) 広島(105) 福岡(125) 那覇(195)	ソウル グアム 大連 上海 長春 台北 北京
青森空港	札幌(50) 羽田(75) 小牧(85) 伊丹(100)	ソウル
三沢空港	羽田(80)	
花巻空港	札幌(55) 小牧(75) 伊丹(95) 福岡(125)	
山形空港	羽田(60) 伊丹(80)	
庄内空港	羽田(60)	
秋田空港	札幌(55) 羽田(65) 伊丹(90) 中部(90)	ソウル
大館能代空港	羽田(75)	
福島空港	札幌(80) 伊丹(75)	ソウル 上海
新潟空港	札幌(75) 佐渡(25) 成田(70) 中部(65) 小牧(55) 伊丹(70) 福岡(110) 那覇(180)	ソウル ハルビン 上海 グアム ハバロフスク ウラジオストク

資料：東北運輸局作成

注：() 内は各空港発所要時間で単位は分(運休中の便も含む)

表4-7 東北地方における国際会議開催件数の推移

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
青森県	2	3	1	1	7
岩手県	1	2	1	6	1
宮城県	57	66	67	74	42
秋田県	0	3	7	1	2
山形県	0	2	1	2	2
福島県	2	1	2	2	0
東北6県計	62	77	79	86	54
新潟県	24	22	25	30	16
合計	86	99	104	116	70

資料：JNTO「コンベンション統計」（国際観光振興機構）

注：国際会議の選定基準（平成19年からの新基準）

- ① 主催者：国際機関・国際団体又は国家機関・国内団体
- ② 参加者総数：50名以上
- ③ 参加者：日本を含む3カ国以上
- ④ 開催期間：1日以上

以上の①～④を全て満たすものを「国際会議」とみなす。

東北の「日本一」「世界一」等“とっておき”観光資源

東北地方の「日本一」

分野	名称・所在地	概要
日本一広い干拓地	秋田県大潟村ほか	かつて琵琶湖に次いで日本で 2 番目の広さを誇った八郎潟を干拓して陸地化された。 総面積 172. 29km
日本一深い湖	田沢湖 (秋田県仙北市)	この深さゆえに真冬でも凍り付くことはない。深い湖水に差し込んだ太陽光が翡翠色から濃い藍色まで彩る。 水深 423. 4m
日本最大の堰堤	津軽富士見湖 (青森県鶴田町)	農林水産省のため池百選に選定され、日本一長い木造アーチ橋「鶴の舞橋」がある。 堤長 4. 2km
日本一長い洞窟	安家洞 (岩手県岩泉町)	国の天然記念物に選定され、自然景勝地でもある。 全長 23, 700m
日本一深い水中洞窟	龍泉洞第 4 地底湖 (岩手県岩泉町)	日本三大鍾乳洞の一つに数えられ、「龍泉洞地底湖の水」は名水百選に選定された。 水深 120m
日本一大きい木造建築	大館樹海ドーム (秋田県大館市)	樹齢 60 年以上の秋田杉 2 万 5 千本を使用しアーチ状にした屋根を持つドーム球場。コンサートなどイベント開催にも対応可能。 高さ 52m、延べ面積 24, 672 m ²
日本一大きい鉄瓶	ジャンボ鉄瓶 (岩手県奥州市)	水沢江刺駅前のシンボル。10 月の「水沢産業まつり」では、この鉄瓶でつくる芋の子汁が振る舞われる。胴体部分の直径約 2. 5m、重さ 1. 8t、地上からの高さ 7m
日本一大きい鍋	大鍋「二代目鍋太郎」 (山形県山形市)	「日本一の芋煮会フェスティバル」(山形市) で使用される、直径 6. 0m、3. 2m、1. 65m の山形鋳物のアルミ合金製大鍋。

資料：フリー百科事典「Wikipedia」

出典：「農林水産省」ほか

東北地方の「日本三大・・・」

分野	名称・所在地	備考
日本三大急流	最上川（山形県） 、富士川、球磨川	
日本三古湯	道後温泉、有馬温泉、 いわき湯本温泉（福島県）	「延喜式神名帳」に基づく
日本三大美林	青森ヒバ（青森県） 、 秋田スギ（秋田県） 、木曾ヒノキ	
日本三大桜（三大巨桜）	三春滝桜（福島県） 、淡墨桜、神代桜	
日本三大桜名所	弘前城（青森県） 、高遠城址公園、吉野山、	
日本三大鍾乳洞	龍泉洞（岩手県） 、秋芳洞、龍河洞	
日本三景	天橋立、 松島（宮城県） 、安芸の宮島	
日本三大史跡	平城京、太宰府、 多賀城（宮城県）	
日本三奇	塩竈（宮城県） 、石の宝殿、天逆鉾	
日本三大ダム	奥只見ダム（福島県） 、黒部ダム、御母衣ダム	
日本三大奇祭	御柱祭、 なまはげ（秋田県） 、吉田の火祭	諸説あり。黒石寺蘇民祭（岩手県）等
日本三大花火大会	全国花火競技大会（秋田県） 、土浦全国花火競技大会、長岡まつり大花火大会	
日本三大霊地（地獄三霊地）	越中の立山、 恐山（青森県） 、 川原毛地獄（秋田県）	
日本三大そば	戸隠そば、出雲そば、 わんこそば（岩手県）	
日本三大うどん	五島うどん、 稲庭うどん（秋田県） 、さぬきうどん	
三大ラーメン	札幌ラーメン、博多ラーメン、 喜多方ラーメン（福島県）	

資料：フリー百科事典「Wikipedia」

出典：「林野庁」ウェブサイト、「全国のお花見名所 100 選ウェブサイト」ほか

東北地方の「世界一」

分野	名称・所在地	概要
世界一長い鉄道トンネル	青函トンネル (青森県～北海道)	全長 53.85km の海底トンネル。スイスで建設中の「ゴッタルダベーストンネル」が完成時には青函トンネルを抜き世界最長となる予定。
世界一面積の広い露天風呂	スパリゾートハワイアンズ「江戸情話与一」 (福島県いわき市)	江戸時代の湯屋の風情を堪能できるテーマパーク。浴槽面積 1,000 m ²
世界一高所にある プラネタリウム	郡山市ふれあい科学館 (福島県郡山市)	愛称「スペースパーク」。郡山駅西口隣ビックアイ 20～23 階に所在しギネス認定も受けている。
水族館に展示されている クラゲの種類世界最多数	加茂水族館 (山形県鶴岡市)	ギネス認定は 30 種でミズクラゲなど刺す種類に限定しているが、刺さない種類も合わせて約 40 種を常時展示。

資料：フリー百科事典「Wikipedia」

出典：「スパリゾートハワイアンズ」ウェブサイトほか

東北地方の「世界三大・・・」

分野	名称・所在地	備考
世界三大漁場	北西太平洋漁場(三陸沖ほか)、北東大西洋漁場、 北西大西洋漁場	水産庁の定義による
世界三大美女	クレオパトラ、楊貴妃、 小野小町(秋田県)	世界的には、小野小町に替えて「ヘレネ」(ギリシャ神話の登場人物)を入れるのが一般的。

資料：フリー百科事典「Wikipedia」

出典：「水産庁」ウェブサイトほか

注1) ここに掲載された内容は、いずれも具体的な調査に基づくランキング結果によるものではない。

注2) 世界の一覧を集めた書籍に「ギネス・ワールド・レコーズ」(ギネス・ワールド・レコード社)があるが、特定の分野において世界一と認定する団体は同社だけでなく複数存在し、ギネスが認定していない記録に掲載する場合もある。

東北観光基本計画 参考資料

平成 25 年 3 月 12 日

東北地方交通審議会